

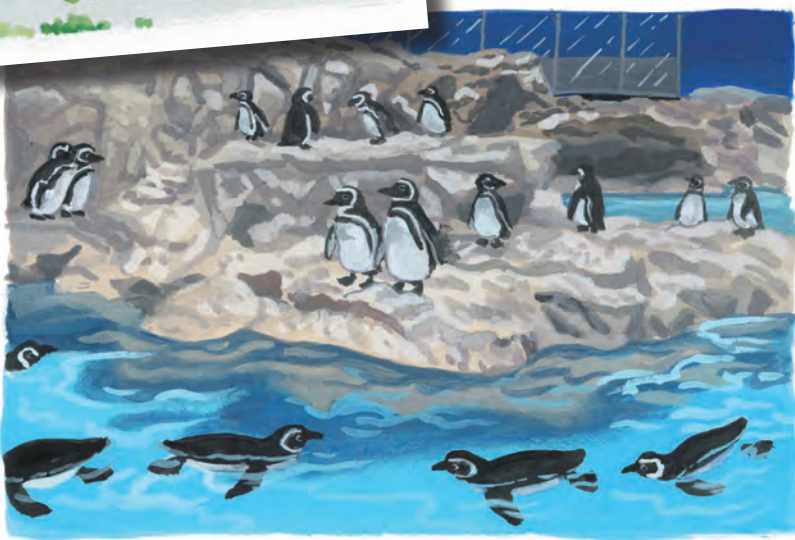
別冊

マンスリー

とーぶ

アーカイブス

1996 ~ 2024



ごあいさつ

いつも「マンスリーとーぶ」をご愛読いただき、ありがとうございます。

「マンスリーとーぶ」は発刊から75年を数える、国内の企業広報誌の中でも古株の広報誌です。

本年1月号より大幅な誌面リニューアルを実施いたしました。

この別冊では、長年の読者の皆様への感謝を込めて、アーカイブスとして1996(平成8)年から2024(令和6)年を、

「新・駅前そぞろ歩記」を中心に振り返りました。

また、「人と街と」「空想美術観」「暮らしのSPICE」「シネマトレイン」など、

過去の人気コーナーを一回限りで新たに書き下ろしています。

さらに、2003(平成15)年から2014(平成26)年まで

約12年にわたって連載した「レストラン『藤木』」も、令和版として復活しました。

お楽しみいただければ幸いです。

東武鉄道株式会社 広報部

「新・駅前そぞろ歩記」ナビゲータ 業平ファミリー



イラストレーション：鈴木健文

CONTENTS

「マンスリーとーぶ」アーカイブスギャラリー — P3 「新・駅前そぞろ歩記」登場人物ギャラリー — P6 駅前そぞろ歩記メモリアル — P8 (とうきょうスカイツリー駅 — P9 大宮公園駅 — P13 東武日光駅 — P17 伊勢崎駅・新伊勢崎駅 — P21 川越駅・川越市駅 — P25 越生駅 — P29) 1回限りの復活! アーカイブス・アラカルト — P33 「人と街と」イザベラ・バード「浅草〜日光」 — P34 「暮らしのSPICE」ぼた餅 — P36 「空想美術観」亀戸天満宮 — P38 「小さな世界紀行」 — P39 「北斎美術観絵図散歩」柳嶋妙見堂 — P40 「遊歩雑記」太平山へ — P41 「みちくさ写真帖」駅にいらっしやい — P42 「奥の細道を歩く」 — P43 「レストラン藤木 あれから20年」 — P44 「シネマトレイン」花嫁はどこへ? — P46 「ミュージックトレイン」 — P47

『マンスリーとーぶ』 アーカイブス・ギャラリー

東武グループ 30 年の歩み 1996～2024 年



2023年7月15日に運行を開始した新型特急「スペースX」が大きく表紙を飾った『マンスリーとーぶ』2023年7月号



藤の名所も多い東武沿線、今まさに満開の白藤の着物を着飾った藤娘を描いた2009年5月号

平成から令和へ、1996年から今日まで、
東武グループが新たな時代へ向けて邁進してきた30年を、
ともに歩んできた『マンスリーとーぶ』の誌面から、振り返ってみましょう！

戦後の混乱がようやくおさまりにかけ

てきた1949年の4月、『東武／TOBU』として産声を上げた本誌は、その後、誌名を『マンスリーとーぶ』に改め、戦後の東武グループの発展とともに歩み続け、昨年で創刊75周年を迎えることができました。企業広報誌として稀有な長期間にわたる発行を続けてこられたのも、ひとえにご愛読いただいた読者の皆様のご支援があつてのことと、篤く感謝いたします。

その間、『マンスリーとーぶ』は戦後50年という切れ目にあたる1995年には、創刊555号を記念して増刊号を発刊いたしました。その後、時代は平成から令和へと移り変わり、私たちを取り巻く社会環境も、これまでにないスピードで、大きな変化を遂げてきました。ここで前回の増刊号の発行以降の1996年から今日までの約30年間、時代の移り変わりに目を向けながら、沿線の皆様とともに歩んできた東武グループの歩みを辿ってみることにしましょう。

1997年、創立100周年を迎えた東武鉄道は、会社創立願いを提出して以来、社名が一度も変わっていない稀有な鉄道会社なのです。創立当時は北関東の生糸や絹織物の産地と東京を結ぶ重要な交通機関として産業発展の一翼を担いました。

2001年には北千住～北越谷間の複々線化が完成、2003年には、伊勢崎線・日光線と東京メトロ半蔵門線・東急田園都市線（南栗橋～押上）渋谷～中央林間）の相互直通運転を開始。埼玉県から東京都心部を通り、神奈川県を結ぶこのルートは、東武、東京メトロ、東急の路線をつなぎ、98.5kmを相互直通するという壮大なものでした。

さらに2006年にはJR新宿駅から東武日光・鬼怒川温泉間をダイレクトで結ぶ、JR東日本との特急列車の相互直通運転が始まり、関東屈指の観光地である日光・鬼怒川エリアへのアクセスとして、現在ではインバウンドによる海外からのお客様も含め、多くの観光客の方々にご乗車いただいでい

西暦年	東武グループの主な出来事	世界・日本の主な出来事
1996		7月19日 アトランタオリンピック開催
1997	11月1日 東武鉄道創立100周年	4月1日 消費税5%に引き上げ
1998		2月7日 長野冬季オリンピック開催
1999		
2000		
2001	3月28日 北千住～北越谷の複々線化完成	9月11日 アメリカで同時多発テロ発生
2002		5月31日 日韓共催サッカーW杯開催
2003	3月19日 伊勢崎線・日光線が東京メトロ半蔵門線・東急田園都市線と相互直通運転開始	
2004		8月13日 アテネオリンピック開催。史上最多タイの金メダル16個
2005	3月1日 「A・Z・Uマウントエクスプレス号」鬼怒川温泉～会津若松で直通運転開始	
2006	3月18日 JR新宿～東武日光・鬼怒川温泉でJR東日本と特急列車の相互直通運転開始	3月20日 WBC第1回大会で日本代表が優勝
2007	3月18日 交通ICカード「PASMO」のサービス開始 9月20日 駅ナカ商業施設「EQUiA（エキア）」1号店が川越駅にオープン	
2008	6月14日 東上線が東京メトロ副都心線と相互直通運転開始。TJライナー運行開始	8月8日 北京オリンピック開催
2009		



2017年5月号表紙



2016年11月号表紙



2016年3月号表紙



2015年12月号表紙

ます。

2006年3月31日、都心部に超高層建築が林立し、既存の電波塔東京タワーでは電波が届きにくくなったことを受け、かねてから検討されていた新タワーの建設地が、東京都墨田区内の押上・業平橋地区に決定しました。2008年には公募によりその名称が「東京スカイツリー」に決定。

2012年5月22日、高さ634mを誇る世界一高いタワー「東京スカイツリー」が開業、商業施設と合わせ「東京スカイツリータウン」がオープンし、最寄りの「業平橋駅」とうきょうスカイツリー駅に改称されました。

二度目の東京オリンピック開催が決定した2013年3月、東武東上線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線（森林公園～和光市）渋谷～横浜～元町・中華街）の相互直通運転が開始され、翌2014年には東上線は開業100周年を迎えました。

2017年8月10日、鬼怒川線の下今市～鬼怒川温泉で、SL「大樹」の運行が開始され、大きな話題となりました。運行に合わせ下今市駅はレトロ調に模様替えされ、SL「大樹」を格納する赤レンガ造りの外観が美しい機関庫も建設し、機関車を回転して方向を変える転車台が設置されました。

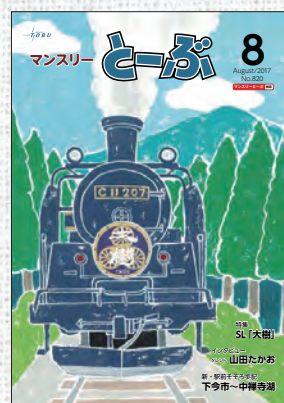
2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	
	7月15日 新型特急「スーパーシアX」運行開始	3月18日 東上線が東急新横浜線・相鉄線と直通運転開始	11月1日 東武鉄道創立125周年	10月31日 みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅開業 11月1日 「TOBU POINT」サービス開始			8月10日 鬼怒川線下今市〜鬼怒川温泉でSL「大樹」運行開始			5月1日 東上線開業100周年	3月16日 東上線が東急東横線・横浜高速みなどみらい線と相互直通運転開始	5月22日 「東京スカイツリータウン」®開業 11月21日 浅草駅ビル(松屋浅草)「E-KIOM ISE」開業			
	3月21日 WBC日本代表14年ぶり3回目の優勝、MVPは大谷翔平		7月23日 東京オリンピックピック2020が1年遅れで開催	4月7日 「新型コロナウイルス」に関する緊急事態宣言を发出	5月1日 元号を「令和」に改元	2月9日 平昌冬季オリンピック開催。史上最多のメダル13個獲得		8月5日 リオデジャネイロオリンピック開催	9月19日 ラグビーW杯で日本歴史的勝利	4月1日 消費税8%に引き上げ			3月11日 東日本大震災発生	6月13日 小惑星探査機「はやぶさ」7年ぶりに無事帰還	



2023年4月号表紙



2022年5月号表紙



2017年8月号表紙



2017年6月号表紙

そして、2023年7月にはフラッグシップ特急「スーパーシアX」の運行が開始され、多くの注目を集めたのは、記憶に新しいところです。ボディカラーは日光東照宮陽明門の門柱に塗られた「胡粉」をイメージした白、先頭車両の窓枠は栃木県鹿沼市の名産品「鹿沼組子」の幾何学模様を連想させるデザインが斬新です。座席は、カフェカウターを備えた1号車の「コックピットラウンジ」など6タイプ、インテリアは江戸時代から伝わる落ち着いた色彩で統一されています。「スーパーシアX」は、「2023年度グッドデザイン賞」、
「2024年ブルーリボン賞」ほか数々の賞を受賞しました。

この30年間で沿線各駅も大きく様変わりしました。駅ナカには商業施設のEQUIA(エキア)がオープンし、多くのお客様にご利用いただいております。そのほか、運輸、レジャー、流通、不動産などの事業を通じて、沿線の皆様とともに、様々な場面で地域の発展に貢献してまいりました。

読者の皆様にとって、この30年はどんな時代だったでしょうか？

東武グループはこれからも新たな時代を見据えながら、ご利用いただく皆様の暮らしに寄り添い、明日へ向かって進んでまいりたいと思っております。

なり ひら 業平家をめぐる人々



ひがし 東 健一
あずまのボーイフレンド。太学院で環境工学を専攻していたが、就職のため単位取得後に退学。仕事での渡米を機にあずまと結婚。せんげん台在住。

業平あずま
業平家の長女。母親が経営する小学生向けの英会話教室を手伝う。ボーイフレンドの東健一が就職し渡米することをきっかけに結婚。北千住在住。

「新・駅前ぎどろ歩記」の登場人物たちを改めてご紹介。
総勢32人もいました。なかには1回だけ登場という人も。
あずまをはじめとする登場人物の四季折々のファッションが楽しめた、
という読者の皆様の感想もありました。

あずまの家族



業平道子
あずまの母。
小学生向けの
英会話教室を
経営する。
趣味は園芸。



業平武司
あずまの弟。
サッカーと鉄
道愛する高
校生。



業平鉄男
あずまの父。
食品会社に勤
める、歴史と
ジャズを愛す
る会社員。

武司の友人



塚田アヤカ
ミツルの妹。
遊園地と動物が
大好きで獣医さん
になることが夢。



塚田ミツル
武司の親友。
映画と鉄道が趣味。
夢は報道カメラマン。
西新井在住。



高坂みずほ
アヤカの親友。夢
は漫画家になるこ
と。柏市(増尾駅)
在住。



川間章男
みずほの漫画を通
じた友達で、アヤ
カの同級生。
西新井在住。

●ここだけ話 その1

あずまと健一は神社で挙式しましたが、渡米の前に和装にこだわったため。あずまは現地で「需要があれば」日本語教室を開きたいと考えている。健一の仕事は次世代の小型モジュール炉の開発。道子が経営する「業平英会話教室」は北千住にある古民家をリノベーションしたもの。塚田ミツルは東武動物公園近くの笠原小学校から6年生の時に西新井に引っ越してきた。祖父母が福島県喜多方市に住む。

あずまの友人



松原早苗
海外旅行、料理、テニスが趣味。六実駅近くに暮らす。



栗橋友子
越谷市に暮らす保育士。職業柄、絵本に強い関心がある。



ザリナ
貿易会社に勤めるマレーシア人。西新井駅近くに住む。



田島美奈子
趣味は映画鑑賞と茶道。犬好き。柏駅近くに暮らす。



鈴木剛志
東健一の親友。群馬県大泉町に住む技術者。ザリナのBF。



牛島大輔
東健一の親友。スキー仲間。電機メーカーからホテルに転職。



篠塚茂美
業平鉄男の同僚。鉄男と同じく歴史好き。絵を描く趣味も。

業平家と同じマンションに住む



国谷幸子
文学少女の面影を残すおっとりタイプの主婦。趣味は読書。



太田恭子
「旅の醍醐味は食」がモットーのグルメ志向の主婦。

あずまの親戚



石黒誠吉
あずまの母方の祖父。福島県いわき市の湯元温泉で食堂を経営する。



石黒キヨ
誠吉の妻。夫や長男夫婦と食堂を切り盛りする。歌舞伎が大好き。



石黒ゆうき
誠吉・キヨの孫。武司と同学年。化石が大好きで夢は地質学者。



赤塚四郎
あずまの父、鉄男の弟。ふじみ野のマンションに暮らす雑誌編集者。



赤塚美津子
四郎の妻。旅行ライターで、なかでも温泉やホテルへの取材が得意。



小川町子
あずまの母方のいとこ。大宮駅近くに暮らす主婦。趣味は水彩画。



小川進一
小川夫婦の一人息子。電車や飛行機など乗り物が大好き。



小川 進
町子の夫。スポーツ用品店に勤める会社員。



国谷幸子
英会話教室で「はあずま」の先輩講師で良き相談相手。趣味は家庭菜園。



国谷杜夫
幸子の一人息子。昆虫も含め動物が大好き。夢は動物園の飼育員。



堀込誠治
国谷幸子の父。元小学校教師。クラシック音楽鑑賞が趣味。



堀込百合子
誠治の妻。夫と横浜市緑区に暮らす主婦。



増尾 光
国谷杜夫の親友。ピアノ演奏が得意で、映画も大好き。



清水さくら
国谷杜夫の友だち。英会話教室に通う。趣味はお菓子作り。

●ここだけ話 その2

あずまの友人は高校時代から(田島美奈子)、短大時代から(栗橋友子、松原早苗)そして編入した大学時代から(ザリナ)と分かれる。早苗は家事手伝いで深窓の令嬢風だが、ボランティア活動に熱心な一面も。ザリナは健一の親友、鈴木さんと婚約中。彼女はアニメがきっかけで日本好きになった。ちなみに婚約者の鈴木剛志の趣味は陶芸。現在の悩みは都心で働くザリナと大泉町に職場がある鈴木さんの新居の場所。

アーカイブス



登場人物の姓は東武線の駅名から付けられ、業平家の名前（鉄男・道子・あずま・武司）から一字ずつをとって（あずまは東とする）東武鉄道になるように設定。東健一だけは駅名と関係なく、結婚後のあずまの名前を考えました。あずまと健一のモデルは、当時制作メンバーにいた男女の社員です。ザリナは80年代にルックイースト政策をとっていたマレーシアからの留学生とし、名前はマレーシア大使館に電話して、よくある女性の名前を聞いて付けたものです。

ここでは路線・地域別に思い出深い「新・駅前そぞろ歩記」を6つ、アーカイブとして再録しました。本文執筆は、東武鉄道広報部のパートナーとして制作に携わった(株)レフの清沢英彦、イラストは鈴木健文、データファイル原稿、取材先の選定・アポ取りなど編集業務は正木ノリオが担当。各人のコメントを欄外にヒデ(清沢)、タケ(鈴木)、ノリ(正木)として付け加えました。

Monthly TOBU Archives

業平橋駅から「とうきょうスカイツリー駅」にリニューアルした回だね（ノリ）。



道子です。私にとって思い出深いのは、平成24（2012年）6月号のとうきょうスカイツリー駅。私たちの名前と同じ業平橋駅の名前が変わったのですから。

新・駅前そぞろ歩記
One day スケッチ



浅草から
ひと駅に誕生した
新しき街へ

こんにちは、あずまです。待ちに待った東京スカイツリー®へ、家族みんなで"行ってきました。4月に申し込んで、抽選に当たったのはこの日の14時に入場のチケット。それまで駅周辺の散策も楽しみました。リニューアルした『とうきょうスカイツリー駅』は、まさに見違えるほど美くなりました！



業平 武司
業平家の長男であずまの弟。サッカーと鉄道愛する高校生。



業平 道子
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸。



業平 鉄男
あずまの父親。食品会社に勤める。歴史と洋食をこよなく愛するサラリーマン。



業平 あずま
業平家の長女。母親が経営する英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



4月20日にリニューアルオープンした「とうきょうスカイツリー駅」。環境に配慮した設備、コンコースの壁画、ステーションコンシェルジュによるわかりやすい案内など、注目点がいっぱい。特急スペーシアも、リょうもうも一部発着します！

とうきょう
スカイツリー（旧・業平橋）①

東京スカイツリータウン®の開業に伴って、業平橋から駅名を改称しリニューアルした「とうきょうスカイツリー駅」。改札は正面口のほかに東口も整備され、コンコースは11倍の広さに。上り特急「スペーシア」「リょうもう」の全線と、下り特急の一部も停車する。新しき街の玄関口として生まれ変わりました。さあ、江戸の粋と東京下町の雅を求め、散策のスタートです。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

いまは北十間川沿いの遊歩道を延長して「東京ミズマチ[®]」もできたから、店もいろいろ増えているね（ヒデ）。

北十間川といえば、小舟で「下町のパンマ運河」といわれる扇橋閘門を通ったのもいい思い出（タケ）。



ランチに入った「花寿司」というお店。ランチだと握りやちらしが800円からいただけます。店内には東京スカイツリーの手作り模型が何台も飾られ、きれいな照明もついていました。とてもアートホームなお店でした。（MAPの⑧）



北十間川沿いの遊歩道を散策しました。ゴミを素材にしたアート作品を展示する「アートリサイクルボックス」というユニークなゴミ箱もありました。将来はこの川を、遊覧船が行き来する構想があるそうですよ。（MAPの⑨）



天望シャトルという超高速エレベーターで、一気に天望デッキのフロア350へ。扉が開くと大パノラマが！雨天時はパノラマスクリーンにこの「江戸一図漫遊記」が上映されるそう。浮世絵が立体的に加工されて動き出すんですって。（MAPの⑩）



いよいよ東京スカイツリーに入場する時間になりました。4F入口フロアにある「SUPER CRAFT TREE」という壁面アートも素晴らしいですよ。駅の改札機のような機械にチケットをかざして、出発です。（MAPの⑪）

いざ東京スカイツリー天望デッキへ でもその前に……

富士山は見えるのかな……。いったい眼下にはどんな景色が広がっているんだろう——やっと手にした入場券です。いまず、天望デッキへと上がってみたい。その気持ちはよく分かります。併設の商業施設「東京ソラマチ[®]」も見たいし水族館にプラネタリウムだって……。まあ、そう焦らずに。まずは指定の時間まで駅周辺をゆっくりと歩いてみてはどうでしょう。下町情緒を色濃く残す街並みと出合えるはずですよ。

とうきようスカイツリー駅のそばを流れる北十間川、川敷に整備された「おしなり公園」。遊歩道を行けば、海の香りを感ずるのですが、その理由も後に分かります。せっかくだから東武橋を渡り浅草通りまで出て、いろんな角度から東京スカイツリー[®]を存分に見上げてください。

そうだ、川面に映る、逆さ東京スカイツリーを見たいなら、川沿いをさらに先へと進んでください。2年ほど前、塔体がまだ300mを超えたくらいのころは、十間橋の上から工事中の全景が映り込んだのですが、いまはちょっと無理かも……。そここうするうち、そろそろ指定の時間ですね。

東京スカイツリーの内部に一歩足を踏み入れた瞬間から、みなさんは新たな物語の世界へと導かれていきます。天望デッキへ向かう天望シャトルは4階からの出発です。なお、7月11日以降に販売を開始する当日券も、この4階チケットカウンターで購入することができますようになります。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

そう？例の「ガラス床」には近づきもしなかった気がするんだけど（ノリ）。

高所恐怖症なんでビビってたんだけど、桁外れの高さに感覚が麻痺して、ちっともコワくなかったです（ヒデ）。

高さ445mのフロアからの眺めをイラストにしたんだけど、上から眺めた建物群を描くのは大変でした（タケ）。



フロア350で天望回廊までのチケットを購入して、再び天望シャトルへ。今度はシースルーになっていて、外の景色も見られます。シャトルを降りた地点は、高さ445mのフロア445。ここからスロープを螺旋状に歩いていくと、最高到達点のソラカラポイント（451.2m）へ。東京タワーも富士山も一望にできる、まさに日本一の眺望です。（MAPの⑤）



フロア340には、下が透けて見える「ガラス床」があり、スリル満点！眺望を満喫して、天望シャトルで地上へ。東京スカイツリータウン®には、商業施設の東京ソラマチ®や、水族館にプラネタリウムもあります。また報告しますね。（MAPの⑥）



天望デッキに戻り、フロア340の「SKYTREE CAFE」で、絶景を眺めながら一休み。オリジナルスイーツもありました。フロア345には、「新日本料理」をコンセプトにした「Sky Restaurant 634 (musashi)」もあり！（MAPの⑦）

仮にあなたが筋金入りの高所恐怖症でも、ここまで来たら上がりますよね、あと100m——。フロア350で天望回廊へのチケットを購入したら、ここからの天望シャトルがまた凄い。シースルーの扉に驚いてはいけません。上を見ると、天井もシースルーなんです。そうこうするうちに到着、天望シャトルの扉が開きます。老若男女を問わず、どんな人でも思わず声が出ますから、この眺望には——。全面ガラス張り、決して大げさではなく、それこそ、空中をその歩きです。おっかなびっくり、ぐるりと回廊をめぐれば最高地点は451.2m。360度スケルトンの大パノラマビュー。いざカメラを構えても、どう撮っているかわからない。そんな高さと眺めの不可思議な空間をご堪能あれ。帰り、5階の出口フロアへ降下しても、浮遊感の余韻が残ります。

東京スカイツリー天望回廊の最高地点は451.2m。空中散歩を満喫！
いよいよです。入場券を手にはゲートを抜け、天望シャトルへ乗り込みます。扉が開くと、高さを標示する数字がみるみる上がっていき約50秒、あっという間に地上350mの天望デッキに到着です。まあ、見てください、この絶景を——。あれが隅田川、あそこは荒川、そしてその先が東京湾。さつき歩いた北十間川から海の香りが漂ってきた理由も、これで分かります。晴れていなくても楽しみ方はさまざまに用意されています。天望デッキは5mごとに3層のフロアがあり、ショップやレストラン、カフェがあります。注目のガラス床が体験できるのはフロア340です。是非、最後にチャレンジを！

一度では紹介しきれないということで、次の7月号でも「とうきょうスカイツリー駅」をやって、そこではソラマチのお店や水族館、プラネタリウムなどを紹介しました（ノリ）。



東京スカイツリータウンと上野・浅草を結ぶ路線バス「スカイツリーシャトル®上野・浅草線」で運行する新車両。



2012年6月掲載当時のデータです。最新情報は各所のお問い合わせ先にてご確認ください。

とうきょうスカイツリー データファイル
 <東京スカイツリー®>...●交通=東武スカイツリーラインとうきょうスカイツリー駅、東武スカイツリーライン・東京スカイツリー駅、京成押上線・都営浅草線押上(スカイツリー前)駅下車 ●営業時間=8:00~22:00(展望台入場は21:00まで)
 ●入場料金、購入方法については、P14参照。
 ◎東京スカイツリーコールセンター
 ☎0570-55-0634
<http://www.tokyo-skytree.jp/>
 <花寿司>...●交通=とうきょうスカイツリー駅・押上駅各徒歩4分 ●営業時間=11:30~21:00
 ●定休日=水曜 ☎03-3622-3231



ソラマチひろばには「TO THE SKY」という屋外彫刻もありました。



とうきょうスカイツリー駅などで東京スカイツリータウンや沿線の案内をします。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

大宮盆栽美術館を取材したあと、「世界盆栽大会 in さいたま」も見学しました。3日間で国内外から4万5000人を動員したとか(ヒデ)。



小川町子です。私が思い出深いのは、平成29(2017)年4月号の大宮公園駅。大宮市民として誇りが持てる盆栽村や県立博物館などをバッチリ紹介できました。

新・駅前そぞろ歩記

One day スケッチ

春風に誘われて巡る ミュージアムヴィレッジ



こんにちは、あずまです。今月は大宮公園駅の周辺を散策してきました。世界盆栽大会が間近とあって、駅のそばにある大宮盆栽村をはじめ、街は大いに盛り上がっていました。こゝはサブ会場の一つとなる「さいたま市大宮盆栽美術館」の盆栽庭園。海外からのお客様も多かったです。

(MAPの(A))

今回の登場人物



大宮駅から東武アーバンパークラインで二つめの『大宮公園駅』。昭和4年開設。「盆栽村」や「大宮公園」の最寄り駅。昨年4月にリニューアルされた駅舎には、地域の情報発信拠点としてギャラリーが新設されました。

大宮公園

(おもちゃこうえん)

東武アーバンパークラインの大宮公園駅を起点とした、半径1kmに位置する9つの施設のエリア名は「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」と呼ばれ、各施設が相互に連携する魅力的なカルチャー&スポーツエリア。
4月21日のダイヤ改正で特急列車「アーバンパークライナー」が新設されるなど、東武アーバンパークラインはますます利便性が高まっています。

「リスの家」は可愛いリスがたくさんいて楽しかったけど、いまイラストを見返すと、もう少しリスを大きく描いた方が良かったな(タケ)。



「さいたま市大宮盆栽美術館」にやって来ました。座敷飾りでの展示は、とても趣がありました。盆栽界の至宝と呼ばれている五葉松銘「日暮し」の展示が6年ぶりにあります。ぜひご覧ください！(MAPの④)



駅の北側に広がる「盆栽村」。6つの盆栽園をつなぐ通りには「かえり通り」「しで通り」「もみじ通り」「けやき通り」「やなぎ通り」と名前が付けられています。歩き疲れたら、「盆栽四季の家」という休憩施設へどうぞ。(MAPの⑤)



ここは市民の森の人気コーナー「リスの家」です。大きな網を TENT 状に張った施設で、シマリスが約300匹も暮らしています。素早く追いかけてくるリスたちの姿は、愛らしくてたまりませんでした。(MAPの⑥)



美術館からさらに北へ歩いていくと「さいたま市市民の森・見沼グリーンセンター」があります。ここはその一角にある「展示温室」。亜熱帯と熱帯の果樹、ヤシ、シダ、水生植物、食虫植物やラン、サボテンなどを観られます。(MAPの⑦)

大宮盆栽村は 世界の愛好家の聖地

大宮公園駅の北側には美しく風情ある「大宮盆栽村」の街並みが広がっています。関東大震災をきっかけに東京の盆栽業者が移り住んだこの地区は、現在「盆栽町」と正式な町名になっています。開村当初から「盆栽を10鉢以上持つ」「垣根は生け垣にする」など一定のルールを設けて自然景観を保全することに町ぐるみで協力してきました。から、いまでも閑静で緑豊かな景観が残されています。その街並みの中にある「盆栽四季の家」は、18世紀初めに建てられた武蔵一宮氷川神社宮司の住宅の一部を移築、模写復元したものです。盆栽園見学などの折に休憩できるスポットです。

「さいたま市大宮盆栽美術館」は、盆栽文化を広く発信していくために開館した世界で初めての公立の盆栽美術館です。名品盆栽100点以上を収集し、それらを館内の座敷飾りや庭園で公開展示。人と自然が共同で作り上げた、生きた芸術の美しさをゆつくりと堪能できます。海外からの来館者も多く、世界中の盆栽ファンにとって、ここ大宮盆栽村が「盆栽の聖地」なのだということを実感します。

今月下旬には、1989年の第1回大会以来、28年ぶりに日本での開催となる世界最大規模の展示会「第8回世界盆栽大会inさいたま」が開かれます。メイン会場はさいたまスーパーアリーナですが、盆栽村や武蔵一宮氷川神社もサブ会場となります。大宮盆栽美術館では、盆栽界の至宝といわれる五葉松銘「日暮し」を6年ぶりに特別公開します。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

この古民家カフェも良かった。料理もうまかったし（タケ）。ネコがいたのが嬉しかった（ノリ）。



遅めのランチに入ったのは「福丸珈琲」という古民家カフェ。ジャズが流れる中、タイ風カレーやハンバーグのセットをいただきました。コーヒーはもちろん、スイーツも人気。可愛いネコもいましたよ。（MAPの⑥）



私は先月予約しておいた十二単の着装体験にチャレンジ。源氏物語の登場人物になった気分は最高で、母と町子さんにたくさん写真を撮ってもらいました。でも、とても重すぎて、うまく身動きがとれません！（MAPの⑤）

リスよりも、十二単体験して笑ってるあずまちゃんが可愛い（ヒデ）。



駅へと戻り、盆栽村にある「さいたま市立漫画会館」へ寄りました。近代漫画の父と言われる北沢楽天の晩年の住居跡に建てられたもの。2階の漫画資料室では、約5千冊の漫画が読み放題！（MAPの⑦）



大宮公園の中にある「埼玉県立歴史と民俗の博物館」です。「縄文の空間-暮らしと願い-」という企画展を開催していました。埼玉県からも多くの土偶が発掘されていたんだ、という驚きがありました。（MAPの⑧）

盆栽村の中には、風刺漫画の祖である北沢楽天の邸宅跡に建てられた、日本初の漫画に関する公立美術館「さいたま市立漫画会館」もあります。資料室では約5000冊の懐かしい昭和の作品が閲覧可能。4月は収蔵品展「大正・昭和のモダンライフ」を開催しています。

盆栽村の先に広がるのは、四季を通して豊かな緑があふれる「市民の森」。さまざまな常緑樹や落葉樹が植えられた森や広大な芝生広場、熱帯・亜熱帯の植物の展示温室、地元野菜を直売する見沼グリーンセンターなどがあり、週末は大勢のファミリーで賑わう憩いのスポットですが、イチ押しは「リスの家」。広いゲージに約200匹のシマリスを放し飼いにし、その中に人が入って間近にリスを観察できるのです。人の足元を横切ったりして伸び伸びと動き回るシマリスに子どもたちは大喜びです。

さて、大宮公園駅の南側に広がるのは大宮公園。公園内には公共建築百選にも選ばれた「埼玉県立歴史と民俗の博物館」があります。常設展示は「埼玉の人々の暮らしと文化」がテーマ。歴史・民俗・美術の、それぞれの時代ごとに特色ある展示室構成となっています。企画展も充実しており、今月は「縄文の空間-暮らしと願い-」を開催中。また、日本の各時代の衣装を着てみたり、勾玉を作ったり、昭和の時代を再現した野外スペースで昔遊びを体験できるユニークな体験学習ゾーン「ゆめ・体験ひろば」も開設しています。

ミュージアムヴィレッジ大宮公園
は自然・歴史・文化のホットエリア

この頃のデータファイルの量はすごい！
のちにはあんまりたくさん書かない方向
になったんだけど（ノリ）。



盆栽村の中にある
「盆栽四季の家」。
くつろぎの空間です。
(9:00～17:00)。
休憩室は無料。
(MAPの④)

2017年4月掲載当時のデータで
す。最新情報は各所のお問合わせ
先にてご確認ください。

大宮公園データファイル

〈第8回世界盆栽大会 in さいたま〉・・・●会期=4/27(木)
～30(日) ●サブ会場=武蔵一宮氷川神社、さいたま市
大宮盆栽美術館、大宮盆栽村 ＊氷川神社と盆栽村は観
覧無料。メイン会場はさいたまスーパーアリーナ(JRさいた
ま新都心駅徒歩3分) ☎同実行委員会(日本盆栽協会内)
03-3821-3059

〈第34回大盆栽まつり〉・・・●会期=5/3(水・祝)～5(金・祝)
9:00～17:00 ●会場=大宮盆栽村・四季のみち ●
交通=大宮公園駅徒歩1分 ☎藤樹園 048-663-3899

〈さいたま市大宮盆栽美術館〉・・・●交通=大宮公園駅徒歩
10分 ●開館時間=9:00～16:30(11月～2月は
～16:00) ●休館日=木曜(4/27・5/4は開館)、4/26
(水)、年末年始、臨時休館日あり ●観覧料=一般300
円/高年生・65歳以上150円/小中生100円*年間パ
スポートあり ●特別展『盆栽—さいたま発の世界ブラン
ド』=5/10(水)まで ＊盆栽界の至宝 五葉松 銘「日暮し」
6年ぶりの特別公開 ＊期間限定(4/27～30、5/3～5)
☎048-780-2091

〈さいたま市立漫画会館〉・・・●交通=大宮公園駅徒歩5分
●開館時間=9:00～16:30 ＊漫画資料室・多目的
室の利用は土・日・祝日・夏休みのみ(10:00～16:
00) ●休館日=月曜(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、
12/28～1/4 ●入館料=無料 ＊収蔵品展『楽天漫画
から読み解く—大正・昭和のモダンライフ』開催中(5/7(日)
まで。無料) ☎048-663-1541

〈埼玉県立歴史と民俗の博物館〉・・・●交通=大宮公園駅
駅徒歩5分 ●開館時間=9:00～16:30(7・8月は～
17:00) ●休館日=月曜(祝日、振休、G.W.期間中、「県
民の日」は開館)、12/29～1/1、館内消毒(6/12～
19、9/11～12) ●観覧料(常設展/企画展/特別展)
=一般(300円/400円/600円)、高校生・学生(150
円/200円/300円)、中学生以下は無料 ＊企画展『縄
文の空間—暮らしと願い—』開催中(5/7(日)まで) ＊
5/5(金・祝)は「博物館子供まつり」『弥生時代復元住居
見学会』を開催(いずれも当日会場で受付。無料) ＊次回
の「十二単・小袿と男子装束の着装体験」は5/20(土)。
4/20(木)までに往復ハガキで応募(応募多数の場合は抽
選。1000円) ☎048-645-8171

〈さいたま市民の森〉・・・●交通=大宮公園駅徒歩20分
●開館時間=8:30～18:00(10月～3月は17:00)
＊りすの家・展示温室は10:00～16:00 ●休館日=
年中無休 ＊りすの家・展示温室は月曜(休日の場合は翌
日)、12/29～1/3 ●入園料=無料

〈福丸珈琲〉・・・●交通=大宮公園駅徒歩1分 ●営業時間
=11:00～18:00 ●定休日=木曜
☎048-628-8652

※記載事項は変更になる場合がございます。

※新・駅前そぞろ歩記のバックナンバーは「マンスリーとーぶ」ホームページでご覧いただけます。 [マンスリーとーぶ](#) [検索](#)

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

コピーライターVSイラストレーターののちに大見出しは2行までとなりました(ヒデ)。

絵の邪魔だよ。せっかく特別公開の東照宮の心柱を描いてるのに(タケ)。

大見出しの文字量がすごい!(ノリ)。



鉄男です。夫婦で旅した平成24(2012)年8月号の東武日光駅が思い出深いです。東照宮のある山内の標高が、東京スカイツリーとほぼ同じということにも感動。

新・駅前そぞろ歩記
One day スケッチ

日光東照宮・ 五重塔に秘められた 古来の技が 東京スカイツリーに つながる



こんにちは、あずまの母の道子です。今日は日光へ夫婦で行ってきました。ここは日光東照宮の五重塔。金箔で覆われた心柱が特別公開されています。東京スカイツリーには、心柱を参考にした制振システムが導入されているそうですよ。(MAPの①)

今回の登場人物



業平道子
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸



業平鉄男
あずまの父親。食品会社に勤める。歴史とジャズをこよなく愛するサラリーマン。



特急スーパーシアに乗って、北千住から約1時間40分で「東武日光駅」に到着。山小屋をイメージした駅舎が印象的です。外国人観光客の姿も多く、まさに国際的観光地への玄関口です。

東武日光

(とうぶにっすう)

東京スカイツリー®と日光の間を特急スーパーシアが結んでいます。今日の日本の最先端技術を駆使して完成した、世界一の高さを誇る自立式電波塔「東京スカイツリー」。片や、開山以来1200年余の歴史を重ねる世界遺産の日光。まったく対極にある観光スポットですが、実は「温故知新」というキーワードで結ばれているのです。ヒントは「五重塔」にあります。その謎を解きに、いざ緑濃き日光へ。

心柱の特別公開もレアだけど、
輪王寺の平成の大修理を見学
できたのもすごかった(ノリ)。



展望見学通路から外側を眺めれば、そこには今まで見たことのない光景が見下ろすと、江戸時代を代表する名園である「逍遙園」が見えます。さらに日光山内を上から眺望するという、これまた貴重な体験ができました。(MAPの③)



のんびり歩いて日光山内へ。ここは世界遺産のひとつ「日光山輪王寺」。本堂である三仏堂は平成の大修理中。伽藍を素屋根が覆い、解体修理の模様を地上26mの展望見学通路から眺めると、貴重な体験ができました。(MAPの③)



下野国一之宮で、男体山を主神体と仰ぐ「日光二荒山神社」です。今から1200年以上前の奈良時代に、勝道上人によって創建されました。神域は3400㎡に及ぶ。これは伊勢神宮に次ぐ広さだとか。(MAPの④)



徳川三代将軍家光公を祀る「輪王寺大猷院」です。大小6つの門、境内に林立する諸大名から寄進された315基もの灯笼も印象的でした。家光公の御生母「お江の方」の御位牌を特別公開しています。(MAPの⑤)

五重塔の心柱 ただいま特別公開中

東武日光駅から門前町の通りをそぞろ歩いて日光山内を目指します。世界遺産登録を機に、この通りは歩道の拡幅や家並みの統一などの整備が進められています。名物の日光ゆばを提供する店が目につくのはいまも昔も変わりません。最近では夏場に日光の天然氷を使ったかき氷も人気です。ほどなく水清らかな大谷川に架かる朱塗りの神橋が見えてきました。日光橋を渡れば、深い杉木立の日光山内。日光東照宮、日光二荒山神社、日光山輪王寺の、いわゆる二社一寺が世界遺産・日光の中心です。今回の旅のメインは、東照宮の境内に建つ五重塔。この塔の内部を貫く「心柱」は吊り下げ式になっていて、地盤より10センチほど浮いています。この仕組みは古来の優れた免震技術ですが、実は今春オープンした東京スカイツリー®には、この五重塔の心柱を参考にした「心柱制振」というシステムが導入されているのです。

そこで、東京スカイツリーの開業に合わせ、また東照宮400年祭(平成27年)のPR企画として、五重塔の内部を来年3月まで特別公開中。開かれた扉の奥に見える伝説の心柱は、外からの光を受けて神秘的な黄金色に輝いています。ちなみに、この五重塔が建つ山内の標高は6300〜6400m。つまり東京スカイツリーとほぼ同じ高さだということも、何か不思議な縁を感じます。

期間限定の見どころをもひとつ紹介。それは輪王寺の大本堂——三仏堂です。日光山でいちばん大きな建物である三仏堂は現在、平成の大修理中。その様子を地上26mの高さから見学できるので、

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

美味かった。頭が「ギーン」
としないんだよね（ヒデ）。

日光天然氷のかき氷、このと
き初めて食べたけど、美味かっ
た！（タケ）。



日光の夏の楽しみ
は、なんといっても
「天然氷のかき氷」。
日光の湧き水を
じっくりと凍らせ
て作った天然氷
を使ったもの。
おいしかった
ですよ！



「日光東照宮」の
一ノ鳥居です。
国宝の唐門や
本殿など5棟
6件で平成の
大修理が行
われていました。
今月は剣道大
会も開催され
るそうですよ。
(MAPのE)



以前、娘のおすまと行った霧降高原にある「グ
ラススタジオ ポンテ」へ。今回も吹きガラス体
験をしてきました。二人でグラス作りにも挑
戦しました。お土産に風鈴や、ガラスで加工
した可愛いフクロなどを買いました。(MAPのG)



「神橋」のそばにある「小杉放庵記念日光美
術館」です。絵の展示だけではなく、さまざ
まなイベントも盛りたくさん。今月は音楽朗読
劇(4日)と日光出前寄席(25日)を開催。
館外にあった屏のアートもユニークでした。(MAPのE)

日光の天空散歩と 東京の天望回廊

約十年にわたる解体修理の間、お堂全体を素屋根がすっぽり包んでいます。その素屋根の上部(7階)に展望見学通路を開設。ここから内部のお堂の解体の様子を見下ろしたり、外側の窓からは日光山内を一望できるのです。その名も「地上26mの天空散歩」。素屋根の1階には「標高634m」と表示されています。そう、東京スカイツリーの高さ。つまり三仏堂の「天空散歩」は、東京スカイツリーの「天望回廊」に重なるのです。徳川三代将軍家光公の墓所・輪王寺大猷院もまた日光山内の重要な見どころのひとつ。家康公を祀る絢爛豪華な東照宮とは異なり、大猷院の建物は金と黒を基調にした重厚な造りです。また、昨年の大河ドラマ『江〜姫たちの戦国〜』を記念して、家光公の御生母・お江の方の御位牌が公開されていることでも話題になっています。

趣を変えて、ほっとリラックスするスポットをご紹介します。大谷川を見下ろす瀟灑な建物は、小杉放庵記念日光美術館。東京大学安田講堂の壁画で知られる日光出身の画家・小杉放庵とその周辺の画家、また近代の日光の文化を紹介する美術館です。建物の一角には喫茶室を併設。日光の美味しい水で淹れる香り豊かなコーヒーが自慢です。

もう1軒のおすすめスポットは、ガラス工房「ガラススタジオ ポンテ」。ここでは気軽に吹きガラス体験ができ、スタッフの丁寧なアシストによって、素敵なマイグラスを作ることができます。世界にふたつとない自作のグラス——これもかけがえのない日光の思い出になります。

ガラススタジオポンテでは、二人がガラス造り体験しているところを写真に撮ってボクは造れなかったんだけど、オーナーでガラス工芸作家の上村さんに美しいガラスをいただき、いまも愛用してます（タケ）。



当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます

東武日光データファイル

〈日光東照宮 五重塔初重内部特別公開〉・・

●期間＝平成25年3月31日(日)まで ●公開時間＝8:00～17:00(11月～3月は～16:00) ●観覧料＝大人(中学生以上)300円／小学生200円 ☎0288-54-0560

●期間＝平成32年度まで(予定) ●公開時間＝8:00～16:00(2/3の節分会、4/1・2の強飯式は休み) ●料金＝大人400円／小・中学生200円 ☎0288-53-4646

〔拝観時間(二社一寺共通)〕・・8:00～17:00(11月～3月は～16:00) ＊輪王寺の宝物殿・逍遙園は8/9(木)・10/11(木)・12/13(木)・14(金)休館

〈世界遺産めぐり手形(循環バス)〉・・・●運賃＝500円(小児半額) ●ルート＝JR日光

駅→東武日光駅→西参道→蓮華石間が1日に
何回でも乗降自由 ●**発売場所**＝東武日光駅
ツリストセンター(9:00～17:00)／JR日光
駅みどりの窓口(6:00～20:00) ㊤東武バス
日光 日光営業所 ☎0288-54-1138

(二社一寺共通拝観券(2日間有効))・●●料
 金＝一般 1000 円／高校生 600 円／小・中・学
 生 400 円 ●共通拝観券に含まれないもの＝
 日光東照宮奥社、五重塔初内部分特別公開／
 輪王寺宝物殿・造道園、地上 26メートルの天
 空散歩／二荒山神社神苑 ●発売場所(3か
 所)＝東照宮内観口向かって右手／輪王寺第
 1 駐車場／東武観光センター(西参道)隣
 ☎0288-54-2007

●交通＝東武日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元・西参道方面行きバスで「神橋」下車、徒歩3分

●開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで) ●休館日＝月曜 ●入館料＝一般700円／大学生500円／高校生以下無料 ●イベント＝音楽朗読劇 童話『猫は生きている』
 8月4日(土) 18:30 1000円／日光
 前寄席 8月25日(土) 18:30
 2000円 ☎0288-50-1200

(グラススタジオ ポンテ(吹きガラス体験))・・・
 ●交通＝東武日光駅からタクシー7分(体験教室予約の場合は送迎) ●体験時間＝10:00
 ～17:30(受付は9:45～17:00) ●定休日
 ＝火曜・第4水曜(お盆・祝日・連休中は営業)
 ●料金＝タンブラー(透明)3675円、ぐいのみ
 (透明)3150円など ほかにサンドブラスト体
 験、アクセサリー作り体験あり
 ☎0288-54-1688

☎0288-54-1688

この「いせさき明治館」は外観も内装も素晴らしく、楽しく描けました(タケ)。

このときは広報部のKさんが初参加。彼女は元陸上部ということで、分刻みの凄まじい移動に耐えてくれました(ノリ)。



あずまです。私の一番の思い出は、健一さんと二人で行った平成26(2014)年2月号の伊勢崎駅・新伊勢崎駅。特に華蔵寺公園の観覧車が最高の思い出です。

新・駅前そぞろ歩記

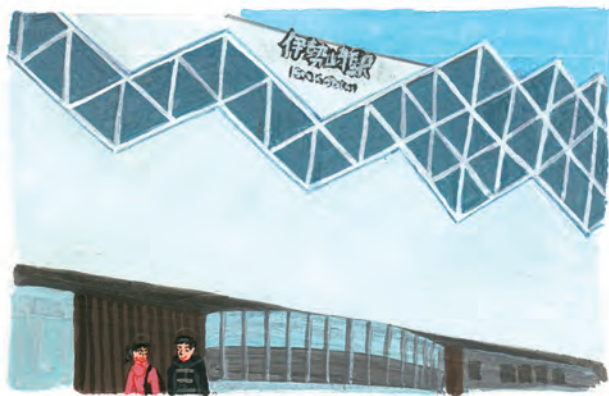
One day スケッチ

懐かしい 絹織物の街にも 新しい息吹



こんにちは、あずまです。今日は健一さんと伊勢崎へ行ってきました。この美しい建物は「いせさき明治館」(黒羽根内科医院旧館)。木造洋風医院建築という様式で、1912(明治45)年に建てられたもの。昨年は創建100年の式典が行われたそうです。(MAPの④)

今回の登場人物



伊勢崎線の終点「伊勢崎駅」。1910(明治43)年に開業。JR両毛線への乗り換え駅にもなっています。昨年10月の伊勢崎線高架橋の完成に伴い、新駅舎も完成。現在、南口駅前広場を整備する工事が行われています。

伊勢崎・新伊勢崎

(いせさき・しんいせさき)

「伊勢崎」と「新伊勢崎」。この隣り合う駅は、高架化に伴って新しい駅舎に生まれ変わったばかり。周囲に広がる街にも、新しい時代の1ページが開かれようとしています。ここは400年以上の歴史をもつ昔の城下町。近代に入ってから、あの美しい絹織物、伊勢崎銘仙の産地として、あまりにも有名になりました。そうした文化の香りを発見しながら、小さな旅を試みましょう。華蔵寺公園園地など、今風なお楽しみスポットにもご注目。期待。

あの一番上の階に立ってること想像すると、もういかん(ヒデ)。

「旧時報鐘楼」は大正時代のレンガ造り。これ好きなきな建物です(タケ)。

伊勢崎銘仙もきれいだった!(ノリ)。



北小学校正門脇に建つ「旧時報鐘楼」。群馬県で最古の鉄筋コンクリート造の建造物だそうです。1915(大正4)年に建てられたもので、赤煉瓦の外観やドーム屋根が素敵です。ここに通う小学生が羨ましいですね。(MAPの㉔)



戦国時代から江戸時代初期に活躍した武将で、伊勢崎藩主だった稲垣長茂の屋敷門と伝えられる「同聚院の武家門」です。ここでは15世紀後半、室町時代の石幢(石塔の一種)や、樹齢600年という大カヤも見られます。(MAPの㉕)



1213(建保元)年創建といわれる「伊勢崎神社」です。百人みこしが繰り出す、8月の「いせさきまつり」が知られています。社殿の彫刻も見事です。昨春秋の「いせさき燈華会」では、ジャズの演奏会が催されたそうですよ。(MAPの㉖)



「いせさき明治館」に入ると、見事な伊勢崎銘仙の数々が迎えてくれました。2月16日まで「アバンギャルド・銘仙展」、2月22日から3月30日まで「至宝の銘仙展Ⅱ」を開催。建物の内装の素晴らしさにも驚かされました。(MAPの㉗)

その向かいにある建物は「伊勢崎織物会館」。時代が江戸から明治に入ると、伊勢崎は、伊勢崎銘仙の故郷として、日本のファッション産業を華やかに彩り始めます。銘仙とは、日常の、おしゃれ着に欠かせなかった絹織物(紵)。伊勢崎では、古くから養蚕が盛んだったことや培われた伝統技術を駆使して、大輪の着物文化が花開きました。

こうして伊勢崎の成り立ちを物語る風景と隣接して、近くには近代を象徴する「旧時報鐘楼」もありました。かつては鐘の音を響かせ、町中に時刻を告げた高い鐘楼は1915(大正4)年の建立。群馬県で最古の鉄筋コンクリート造りです。もちろん現在では使われていませんが、いまでも美しい赤煉瓦の外装や丸窓のステンドグラスなど、当時の人々の西欧文化への憧れやロマンを偲ばせます。

まず、歩く間もなく出会うのが、あたりを圧するよう建つ、重厚な「同聚院の武家門」です。これは1601年、伊勢崎藩の初代藩主となった武将・稲垣長茂の屋敷門だったとか。一般の山門とは異なり、瓦葺きの切妻造りという注目すべき存在です。同聚院そのものの創建は、12世紀と古く、広々とした境内は奥が深い。由緒ある史跡が点在しますから、忘れずに観てみましょう。

すっかり立派になったと評判の「伊勢崎駅」を降り、南口の駅前広場に出てみると、すぐ右側に見えてくるのが「武家門通り」の標識です。一見、ごく普通の住宅街の中ですが、実はこの道が、伊勢崎の歴史散策の入口ともいえます。

『武家門通り』を歩いて
伊勢崎の歴史をたどってみる。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

あと、おっきりこみも初体験の味。さらにテレビなどで話題になってた「いせさきもんじゃ」は、イチゴシロップが入っている、ふしぎなもんじゃでした（タケ）。

華蔵寺公園遊園地は、古き良き昭和の香りが漂っていた（タケ）。



ランチで入ったのは「牛島庵」というお店。おっきりこみ（煮ぼうとう）という、群馬県の郷土料理をいただきました。幅広いうどんに野菜がたっぷり。寒い冬にはありがたい料理です。ボリュームもすごかったです。（MAPの⑤）



旅行の締めは「いせさきもんじゃ」。その特徴は、具が少なくて4-7°（本当に安い!）であることだそうです。いちごシロップ入りは「アマ」で、カレー粉入りは「カラ」。トッピングの定番はベビースターラーメンです!



国指定重要文化財の埴輪4点が観られる「相川考古館」へやって来ました。この建物は、茶室の「鶴華庵」です。展示室では、投扇興の遊びも楽しめますよ。土日はミュージアムショップで、焼きたてパンの販売も!（MAPの⑤）



伊勢崎駅北口からバスに乗って、「華蔵寺公園遊園地」にスッパに行ってきました。街のシンボリックな存在の大観覧車「ひまわり」や、ジェットコースターを満喫してきました。園内には可愛い豆汽車も走っていましたよ。（MAPの④）

和モダンを彩った銘仙は いまもステキ!

伊勢崎銘仙を鑑賞するなら、「いせさき明治館」を訪れてみましょう。すてきな木造洋風医院建築は、100年も前に建てられた黒羽根内科医院旧館（旧今村医院）を引き家移転したもの。外観と内装と一見に見えますが、館内は、四季折々の伊勢崎銘仙を展示するプチ・ミュージアムになっているのです。特に2月は「アバンギャルド・銘仙展」や「至宝の銘仙展Ⅱ」が開催され、その伝統美や驚くほどモダンなデザイン感覚には、次代への新しい可能性も見えてきます。

さらに、道は「伊勢崎神社」へと続きます。鎌倉時代に創建され、代々の領主から守護神として崇敬されたという社は、やはりパワースポット。本殿を彩る精緻を極めた彫刻に、しばし時を忘れて憩いましょう。また、ちよっと寄り道するとある「相川考古館」がまた必見です。江戸時代に町役人を務めた家の歴史的建造物です。茶室は県指定の重要文化財です。同時に相川の賀翁が収集した考古資料は学術的にも評価され、中でも4点の埴輪像は国指定の重要文化財になっています。

ところで、TVアニメ化されている人気マンガ『日常』をご存じですか? その舞台となったのが伊勢崎駅北口と「華蔵寺公園遊園地」に囲まれた一帯。近頃は、主人公たちの世界を見ようと訪れる若いファンも増えました。この華蔵寺の杜を基点に開けた遊園地は、おすすめのお楽しみスポットです。入園は無料でアトラクションは多彩。大型観覧車から望む、裾野は長し赤城山の姿も、伊勢崎ならではの景観です。

琴を弾く少年の埴輪もあって、
考古館のキャラクター「こは
にくん」としてクッキーや饅頭
になってるよ (ヒデ)。

相川考古館の埴輪武
装男子立像、映画『大
魔神』を思い出すね
(ノリ)。

伊勢崎・新伊勢崎データファイル

【いせさき明治館】・・・●交通=伊勢崎駅徒歩7分 ●開館時間=10:00
～17:00 ●休館日=月・火曜 (祝日の場合は開館) ●入館料=無料

●「アバンギャルド・銘仙展」・・・2月16日(日)まで開催中 ●「至宝の銘
仙展II」・・・2月22日(土)～3月30日(日) *3月1日の「いせさき銘仙の日」
では、北小学校体育館にてファッションショーを開催

☎0270-40-6885

【相川考古館】・・・●交通=新伊勢崎駅徒歩10分、伊勢崎駅徒歩12分

●開館時間=9:30～16:30 (入館は16:00まで) ●休館日=月曜、
年末年始(12/28～1/4) ●入館料=大人500円/小中学生200円

☎0270-25-0082

【華蔵寺公園遊園地】・・・●交通=伊勢崎駅北口からいせさきコミュニ
ティバス「あおぞら」(無料)の「赤堀シャトルバス」で「華蔵寺公園東」下車

●開園時間=9:30～16:30 (3月～11月は9:00～17:00) ●休
園日=火曜 (祝日の場合は開園)、年末年始(12/29～1/1) *4・8月
は無休 ●入園料=無料 *のりものは別途(例/ジェットコースター 350
円、大観覧車 280円、サイクルモノレール 140円、豆汽車 70円ほか) ☎
0270-25-4478

【千曲庵】・・・●交通=新伊勢崎駅徒歩6分 ●営業時間=11:00～14:
30、17:00～20:00 ●休業日=月曜 (祝日の場合は営業、翌日休業)

*おっきりこみ970円 ☎0270-24-5690

※記載事項は変更になる場合がございます。

2014年2月掲載当時のデータで
す。最新情報は各所のお問合わせ
先にてご確認ください。



「相川考古館」では国指定
重要文化財の埴輪4点が
見られます。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

外国からの観光客で
いっぱいのは随分
分違ってた（ノリ）。

空が広い（タケ）。

電線を地中化して
から、地上には電柱
も電線もない（ヒデ）。



健一です。思い出深いのは、あずまと一
緒に行った、平成20（2008）年10月号
の川越駅・川越市駅です。電線がなく、
空が広い川越の街歩きは格別でした。

新・駅前そぞろ歩記

One day スケッチ

小江戸情緒の蔵の町 ——川越を歩く

江戸の面影を
現代によみがえらせた川越は
毎年少しずつ進化して
ますます魅力ある観光地へ



こんにちは、あずまです。
今日は健一さんと、小江戸・川越を訪れました。
蔵造りの町並みは素敵
でしたよ。小江戸名所めぐりバス』を使って、観光
スポットめぐりを楽しくむ
たちも多かったですよ。
（MAPの①）

今回の登場人物



業平あずま
業平家の長女。母親が経営する小学生
向け英会話教室を手伝う。
趣味は旅行。



業 健一
あずまのボーイフレンド。環境工学を
専攻する大学院生。スキーをはじめ
スポーツも得意。

川越・川越市（かわごえ・かわごえし）

川越の旧市街地に残る古い蔵造りの町並みが、いまや人気の観光ス
ポットになり、来春放送のNHK連続テレビ小説「つばさ」でも、こ
の蔵造りの町並みが舞台となります。『こうしてはいられない。ヒト
足先に小江戸川越をぐるり周遊するぞ！』という方には、「小江戸名
所めぐりバス」の一日フリー乗車券（東武バスウエスト）がお得で便利。
東武東上線・川越駅前から乗れますが、お隣の川越市駅前からでも乗
れるのがポイントです。

店内の雰囲気も良かった(タケ)。

川越といえば「うなぎ」、美味しかったね(ノリ)。

ランチをどこにするか決めかねていたとき、「川越まつり会館」のボランティアの方に「小川菊」を勧められたんだ(ヒデ)。



最初に向かったのは蓮馨寺。子育ての吞龍様として親しまれ、川越七福神の一つ(福祿寿神)でもあります。これは頭をなでると病気が治るという、ありがたい「あびんづる様」です。(MAPの③)



池袋から東武東上線の急行に乗って約35分、「川越市駅」に到着しました。駅から少し歩いただけで和・小物やかつお節の専門店といった、小江戸情緒のあるお店が現れてきます。



川越のシンボル「時の鐘」は、奈良の大仏様と同じ高さだとか。6時・正午・15時・18時と一日に4回、鐘が鳴らされます。(MAPの④)



川越はうなぎ料理でも有名。こちらは、お昼に入った「小川菊」というお店。大正浪漫夢通りにある創業200年の老舗です。うなぎも、長い歴史を受け継がれてきたタレも最高でした。(MAPの⑤)

観光地としての川越は「小江戸川越」と呼ばれていますが、その範囲はおもに蔵造りの町並み界隈、川越城本丸御殿界隈、喜多院界隈の3つのゾーンから成っています。

江戸の町家形式として発達した蔵造りの町並み。川越藩は江戸の北の守りであるとともに物資の供給地として重視され、たいそう賑わいました。その繁栄は明治になっても変わらず、町が大火に見舞われると、川越商人たちは持ち前の財力で耐火性を備えた立派な土蔵造りの店を建てていきました。これが今日の町並みの基になったのです。

一番街通りを中心に指定文化財の蔵が23。そのうち旧小山家住宅が蔵造り資料館となり、また大沢家住宅は国の重要文化財として公開されています。蔵だけではありません。大正から昭和初期に建てられた洋風建築もこの界隈に多く残り、景観に彩りを添えています。

さらに、旧商家の町並みを見守るように配置された社寺の数々。そこには「川越七福神」が設定され、各寺では秋の七草が育てられています。そのひとつ、蓮馨寺には吞龍上人が祀られ、「子育ての吞龍様」と親しまれています。

蔵の町のシンボルは、300年以上にわたって川越に暮らす人々に時を報せている「時の鐘」。高さ約16mの現在のお堂は、やはり明治の大火で焼け落ちた後に蔵とともに再建されたものです。路地にもどんどん入ってみましょう。鮎細工で賑わう菓子屋横丁や、黒堀に沿って流れる水路など、日本の懐かしい風景発見の連続です。

江戸情緒から昭和レトロまで
味わえる蔵造りの町並み

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

昭和初期の菓子屋横丁は、70軒からの菓子屋さんがひしめき合ってたそう（ヒデ）。

One day スケッチ



観光客にも大人気の「菓子屋横丁」です。昔懐かしい駄菓子の数々が売られ、どれを食べようか迷ってしまいます。平成13年度には、環境省が実施した「かおり風景100選」に選ばれたそうです。
(MAPの㊦)



毎年10月に開催される「川越まつり」を紹介する、その名も「川越まつり会館」。本物の山車も2台展示され、大型スクリーンでは、まつりの映像を観ることもできます。

(MAPの㊧)



寛永元年(1624)年に再建されたといわれる「三芳野神社」です。童謡の「とおりゃんせ」発祥の地としても有名で、「てんじんさまのほそみちじゃ」という歌詞のとおり、天神様の社です。
(MAPの㊨)



ここは「市立博物館」です。古代から現代に至る川越の歴史や民俗がさまざまなジオラマやビデオ映像を通して紹介されていました。隣接する「市立美術館」では10月11日から絵画で読む宮沢賢治展が開催されます。(MAPの㊩)
川越織(織)の体験も出来ました。

「川越のお大師さま」と親しまれる喜多院も、広い境内に配された仙波東照宮などのお堂や山門、それに庭園など見どころいっぱい。庫裏「春日局の化粧の間」がある書院、「家光誕生の間」がある客殿の3棟は、江戸城紅葉山の別殿を解体・移築したもの。いまは幻の江戸城の名残を川越で味わうことができるのです。

さて、秋の川越で見逃せないのが、豪華絢爛な山車が蔵造りの町並みを進む川越まつりです。一番の見どころは、山車どうしが出会う「曳っかわせ」。山車の離子台がくると回ってお互いに向き合い、踊り比べをするのです。離子と舞、そして山車の曳き手と観衆の歓声が蔵造りの町並みに響き渡る川越まつりは、10月18(土)・19(日)開催。なお、川越まつり会館では山車が展示され、迫力ある映像でまつりの模様を見ることが出来ます。

かつての城内には現在、市立博物館・美術館、武道館が建ち並んでいます。三芳野神社もまた川越城内。一般の人の参詣が困難だったところから、わらべ歌「とおりゃんせ」がここで生まれたと伝えられています。

室町時代に太田道真・道灌父子が築いたといわれる川越城は、江戸時代になると代々徳川幕府の重臣が城主となり、天守閣はないものの、16の建物が軒を連ねる広大な名城でした。その大半は明治以降に失われてしまいましたが、大層破風の底がついた立派な玄関や大広間、家老詰所が残り、川越藩17万石の本丸御殿としての風格を偲ばせています。

川越城本丸御殿と喜多院
そして秋の川越まつり

川越は見どころ多かったからなのか(ヒデ)。

この頃はイラスト2点
多かったのか(タケ)。



A vibrant, cartoon-style illustration of a traditional Japanese shrine. The main building features a dark, tiled roof with ornate, curved eaves. A white torii gate stands in front of the entrance. The shrine is surrounded by lush green trees and a low wooden fence. Several people, including children and adults, are depicted near the entrance, adding a sense of life and activity to the scene. The sky is a clear, bright blue.

埼玉県指定文化財の「越城本丸御殿」です。現在は玄関・広間部分と、移築復元された家老詰所を残すのみですが、現存する御殿建築は極めて少ないそうです。10月21日から平成23年3月まで、保存修理のため休館になります。(MAPの①)



2008年10月掲載当時のデータです。最新情報は各所のお問い合わせ先にてご確認ください。

<小江戸川越クーポン>・・・特典＝東上線の往復電車運賃が2割引 東武バス1日乗り放題（小江戸名所めぐりバスは指定区間） 協賛店28店のうれしいサービス ●有効期間＝発行日から10日間のうち1日限り ＊川越まつりの当日は利用できません。 ●発売額＝例（発駅が池袋・小川町の場合）1,020円（小児は半額） ●発売場所＝東上線各駅（川越・寄居・越生を除く） ㈱東武鉄道お客さまセンター ☎03-5962-0102 ＊「小江戸名所めぐりバス」に関してはP16参照。 <川越まつり会館>・・・交通＝東武バス「札の辻」下車1分 ●開館時間＝9:30～17:30（4月～9月は18:30まで）＊入館は閉館の30分前まで。 ●休館日＝第2、第4水曜（休日の場合、その翌日）、12月29日～1月1日、臨時休館日等 ●観覧料＝一般300円、小・中・学生100円 ☎049-225-2727

＜川越市立博物館＞・●交通＝東武バス「博物館」下車 ●開館時間＝9:00～17:00（入館は16:30まで）●休館日＝月曜（休日の場合は翌日。川越まつりの翌日は除く）、第4金曜（休日は除く）、12月28日～1月4日 ●入館料＝一般200円、高・大学生100円、中学生以下無料 ☎049-222-5399

＜川越城本丸御殿＞ ●交通＝東武バス「博物館」下車 ●開館時間＝9：00～17：00（入館は16：30まで） ●休館日＝月曜（休日の場合は翌日）川越まつりの翌日は除く ※10月21日～平成23年3月まで保存修理のため休館 ●入館料＝一般100円、高・大学生50円、中学生以下無料 ☎049-224-6015

＜喜多院＞ ●交通＝東武バス「喜多院前」下車 ●拝観時間＝平日8:50～16:30（～16:00）、日祝8:50～16:50（～16:20）※（ ）内は11月24日～2月未だ ●お休み＝12月25日、1月8日、2月2日～4日、4月2日～6日、8月16日 ●拝観料＝大人400円、小中学生200円
 問合せ049-222-0859

＜小川菊＞・●交通＝東武バス「仲町」下車2分 ●営業時間＝11:30～14:00、16:00～19:00 ●定休日＝木曜（不定休あり）＊うな重並1800円 〆049-222-0034
＊交通で書かれたバス停の名称は「小江戸名所めぐりバス」のものである。＊今年の川越まつりの開催日は、10月18日土・19日日で。

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます

これはなんと言っても、越生町の小学校で教材に使っていただいたという思い出の（最近だけど）回でした（ノリ）。



国谷です。思い出深いというか大変だったのは、令和 5（2023）年新年号の越生駅。武蔵越生七福神を歩いてとても楽しかったのですが、翌日は筋肉痛でダウン。

武蔵の山里で 七福神ハイキング



新・駅前そぞろ歩記

One day スケッチ

明けましておめでとうございます、あずまです。今月は、埼玉県の「武蔵越生七福神めぐり」に行ってきました。ここは龍穂寺（毘沙門天）の山門です。平安時代の 800 年代初頭に修験者たちの寺として創建。室町時代に足利将軍の命で曹洞宗の寺院となり、さらに太田道真・道灌父子の努力で中興したそうです。父子の墓や道灌の像もありました。一昔前までは、修行僧の心胆を寒からしめた「天下の鬼道場」だったそうですよ。（MAP の①）

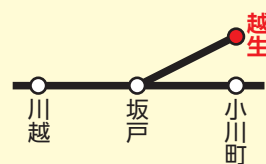
今回の登場人物



越生線の終点、越生駅。JR 八高線との接続駅になっています。越生七福神、黒山三滝などへのハイキング、越生梅林、五大尊つつじ公園などの最寄駅。1934 年開設。

越生（おこせ）

室町時代に京都で始まったといわれる七福神巡りは、現在では全国各地に広まり、お正月の風物詩の一つとなっています。東武鉄道沿線にもさまざまな七福神があります。「今年の七福神はどこを巡ろうかな」と悩んでいる方へ。今回オススメするのは、越生線の終着駅・越生。冬晴れの凛とした冷気の中、奥武蔵の山々を眺めながら自然豊かな山里をハイキングする「武蔵越生七福神めぐり」です。



ここにも可愛いネコがいた
(ノリ)。

宮沢賢治の『注文の多い料理店』
のお店と同じ名前、というのが
ちょっと不安だった (ヒデ)。

「ギャラリー&カフェ 山猫
軒」も良かった。ライブ演奏
も聴きたかった (ノリ)。



駅前から黒山行きのバスで「黒山バス停」へ。そこから
徒歩2分で「全洞院 (布袋尊)」。ここには渋沢栄一の義
弟で、20歳で亡くなった渋沢平九郎の墓が。近くには「渋
沢平九郎自決之地」碑もありました。(MAPの©)



本堂の前に仁王像が立つのは、寿老人を祀る円通寺で
す。お寺の近くにはハイキングの休憩所として、また
特産の梅や柚子の加工品などを販売する「うめぎの梅
の駅 (越生自然休養村センター)」がありました。
(MAPの⑤)

越生駅西口前に建
つ「太田道灌像」。
江戸城の築城で知ら
れる道灌は、越
生町の出身。「伝山
吹の里」、生誕の地
とされる「山枝庵」
などゆかりの史跡
も多く、太田道灌を
NHK大河ドラマに！
という署名活動も
行われていました。
(MAPの⑧)



次の龍穂寺から円通寺に向かう途中、「ギャラリー&カ
フェ 山猫軒」でランチに。工芸品や写真などの展示
を楽しみながら、古代米野菜カレーと天然酵母ピザを
いただきました。夜はライブ演奏も楽しめるそう。
(MAPの⑩)

越生町は全国で唯一「ハイキングのまち宣
言」をしました。黒山三滝などの風光明媚な
自然や多くの歴史文化に恵まれているため、
一年を通してハイキングが楽しめる、いろい
ろなコースが設定されています。武蔵越生七福
神めぐりもその一つ。越生駅から越辺川に
沿って大高取山を回り込み、山道を進んで黒
山に至るまで約13・1キロの道のりです。ま
ずは駅西口総合案内所で七福神めぐりのマッ
プを入手。そのマップにも記されていますが、
越生駅からバスで黒山まで行き、そこからハ
イキングで七福神めぐりをしながら麓に下っ
ていくという手順が便利とのこと。黒山の集
落はパワースポットとしても人気の観光ス
ポット・黒山三滝への入口。この地に建つ全
洞院 (布袋尊) からスタートします。

黒山は飯能戦争で新政府軍と戦った彰義隊
の渋沢平九郎 (渋沢栄一の義弟) が自決した
地で、自刃岩の傍らのナツグミが平九郎の血
の色を宿すかのような赤い実をつけることか
ら「平九郎グミ」と呼ばれています。

バスが上ってきた道を少し戻って、左の山
道へ。上り下りを繰り返しながら40分ほど歩
くと龍ヶ谷集落に出ます。龍穂寺 (毘沙門
天) は太田道真・道灌父子によって再興され
た名刹。精緻な彫刻を施した山門が圧巻です。

豊かな自然を満喫しながら
年の初めの健康ハイキング

当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。

なんとも広範囲な七福神巡り
した（ヒデ）。

駅で電動アシスト自転車进行を借
りられたから良かったけれど、
歩いてたら大変だった（タケ）。



弘法山にやってきました。170段くらいの石段を上がった山頂に諏訪神社、山麓に見正寺、そしてこちらが中腹に建つ観世音（弁財天）です。安産子育ての観音様として、参拝者が絶えないようですよ。（MAPの㉔）



ここは源頼朝が戦勝祈願の寺として創建した最勝寺（福祿寿）。紅梅、白梅が咲き乱れる梅の寺でもあるようです。境内には越生に生まれた室町・戦国時代の医師で、後に医聖と呼ばれた田代三喜の碑も。（MAPの㉕）



最後は法恩寺（恵比寿）。駅もすぐそばです。開山はなんと、大仏造立に奔走したことで有名な行基。一度荒廃した後、堂塔伽藍を建立させたのが源頼朝という古刹。距離にして13.1kmの七福神めぐりの終了！（MAPの㉖）



正法寺（大黒天）です。本堂脇にある閻魔堂の中に、閻魔様、その前に大黒天が祀られていて、母も国谷さんもびっくり。毎年2月16日には、悪縁を焚き上げ、良縁を結ぶ閻魔縁日が行われるようです。（MAPの㉗）

関東を代表する 越生梅林を眺めながら歩く

龍ヶ谷から山道を上り、山林を抜けた小川のせせらぎを聞いたり、のどかな山里の風景を楽しみながら歩くこと1時間。バスが通る県道に出て少し歩くと円通寺（寿老人）です。ここまで歩いてくると風景は山間から山裾の広い郷へ。七福神めぐりのおよそ半分の行程を歩いたことになります。

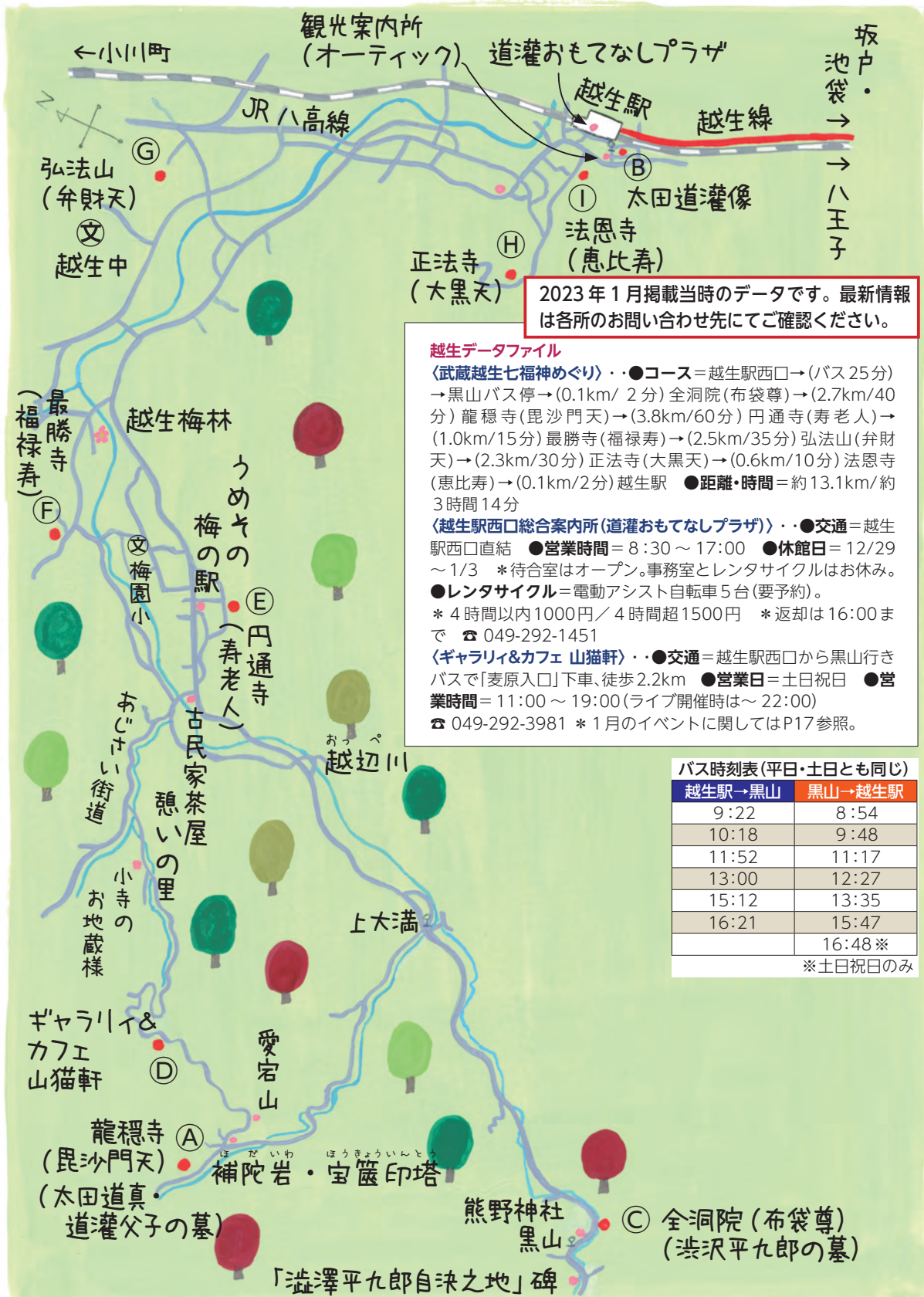
越生の山里を歩いていると道端に古い小さな石仏群や庚申塔を見ることがあり、かつての人々の素朴な信仰心が偲べれます。

最勝寺（福祿寿）の近くには関東三大梅林の一つ、越生梅林が広がっています。越辺川沿いの2haの園内には千本の梅。花が咲き揃い甘い香りが一帯を包む2月中旬からは、大勢の観梅客で賑わう梅まつりが開催されます。そのまま越辺川沿いの道を下っていくと弘法山（弁財天）。その名の通り、弘法大師作と伝わる観音像を祀っています。

ここから越生駅に向かって歩き、正法寺（大黒天）へ。ここは鎌倉建長寺の末寺で、足利尊氏の中興といわれています。続いて駅近くの法恩寺（恵比寿）へ。ここから県道を渡るとすぐに越生駅前に出ます。ゴール！

なお、1月4日(水)に越生町主催で「武蔵越生七福神めぐり」を開催。先着1500名にオリジナル干支缶バッジが進呈されます。

マップの文字、イラストレーターの手書きから、手書きに見える活字に途中から変わりました。気づいていた方はいらっしゃいますか？(ノリ)



当時の誌面のため、掲載情報は現在と異なる場合がございます。



新・駅前そぞろ歩記のバックナンバーは「マンスリーとーぶ」ホームページで閲覧いただけます。

※このコーナーで紹介した内容は変更になる場合がございます。

1 回限りの書き下ろしで復活！

『マンスリーとーぶ』 アーカイブス・アラカルト

“Monthly TOBU” à la carte Menu 1996 ~ 2024

1996 年から 2024 年までの約 30 年間、『マンスリーとーぶ』は東武グループが迎えた新たな時代の出来事、東京スカイツリータウン®の開業、SL「大樹」やスペーシア X の運行開始など、最新の情報をお届けしてまいりました。他にも味わい深い連載小説やエッセイの数々、施設名を冠した新たな駅もできてより便利になった「東武ワールドスクウェア」に因んだコーナーや、沿線の新名所となった「すみだ北斎美術館」とのコラボ企画などなど、様々なページが誌面を飾ってきました。

ここで、豊富で多彩なアーカイブスデータの中から、編集メンバーが推すコーナーを、1 回限りの書き下ろしで復活させました。懐かしくて、しかも新しい味わいを加えた「選りすぐりの逸品料理」「à la carte Menu」の数々をぜひご堪能ください！



下町洋食ものがたり

奥の細道を歩く



みちくさ
写真帖
アーカイブス



東京スカイツリー®百景

北斎美術観
絵図散歩

37景



特集
人と街と

ミュージック
トレイック

TRAIN
E
M
A

Essay — 遊歩雑記

東京スカイツリー®百景

空想美術観

— こんな場所発見! —

51景

東武鉄道沿線の「街」と、その地にゆかりの深い「人」との繋がりをご紹介した「人と街と」は、奥日光の自然を愛したトーマス・グラバーに始まり、地元すみだに生まれ、すみだを描いた葛飾北斎まで、全36回にわたり連載されました。綿密な取材調査による読み応えある紀行文は好評を博し、東武沿線を巡る小さな旅へと多くの読者を誘ったことでしょう。
掲載期間：2004年1月号～2011年2月号



金谷ホテル歴史館
住所：栃木県日光市本町1-25
開館時間：9:30～17:00(最終入館16:30／3～11月) 10:00～16:00(最終入館15:30／12～2月)
入館料：大人550円 子供(小学生)275円(12～2月は月2～3回不定休あり。要確認)
☎0288-50-1873
URL：<https://nikko-kanaya-history.jp/>

明治29(1896)年7月10日、5度目の来日時に横浜ファルサーリ商会にて撮影された65歳のイザベラ・バード(写真提供：日光金谷ホテル株式会社)。



特集 人と街と

イザベラ・バード、 浅草から日光へ

明治11(1878)年、開国を待ちかねたように、英国人女性旅行家イザベラ・バードは北米から18日間の船旅で太平洋をわたり、日本へやって来ます。彼女は東京から東北・北海道への長い旅の途中に日光を訪れ、「日光金谷ホテル」の創業者金谷善一郎が提供した「カナヤカテッジン」(現・金谷ホテル歴史館)に宿泊しています。浅草から日光へ、147年前の彼女の旅を辿ってみることにしましょう。

旅立ちの前日に浅草観光を満喫

イギリスの旅行家であり紀行作家のイザベラ・バード Isabella Lucy Bird が初めて日本にやって来たのは明治11(1878)年のことであった。当時47歳の彼女は日本人通訳の若者イトウと二人で未踏の地である東北・北海道を旅する。その間、彼女が故国の妹宛に旅の印象を書き送った書簡集が、1880年にイギリスで刊行された『Unbeaten Tracks In Japan』『イザベラ・バードの日本紀行』(時岡敬子訳 講談社学術文庫)である。
東京を後にする前日、イザベラは「一年中市が立って、お祭りをやっている」浅草寺を訪ね、一東五〇本入りの線香花火を買い、寺院の左にある庭園(花屋敷?)で美しい花々を観るなど、浅草観光を楽しんでいる。

翌朝、麹町のイギリス公使館を人力車で出発した彼女は、その日の夕刻に最初の宿泊地粕壁(埼玉県春日部市)の「旅人で混んでいて、さまざまな悪臭がする」宿に到着する。そこで彼女を待っていたのは部屋をじろじろと覗く黒い眼と、畳の隙間にひそんだ無数の蚤の大群だった。
さらに粕木の宿でも、三味線と音程の外れた歌のどんちゃん騒ぎに悩まされた彼女は、杉並木の例幣使街道を通って日光に辿り着き、ヘボン博士に紹介された宿の主人、金谷善一郎に会う。

《各ページ欄外コメントは筆者の方からいただきました》

幕末から明治維新に来日した外国人の旅行記や滞在記は数多い。イギリスの外交官で日本人の妻を娶ったアーネスト・サトウ、大森貝塚を発見したアメリカ人動物学者エドワード・モース、御茶ノ水のニコライ堂を建てたロシア人宣教師ニコライ・カサートキン、イギリス人プラントハンターのロバート・フォーチュンなど、どれも当時の日本を知る上で大変貴重である。中でも今回ご紹介したイザベラ・バードの『イザベラ・バードの日本紀行 上・下巻』（講談社学術文庫）は、その舞台が東京や横浜といった都市部ではなく、未開の地であった東北や北海道である点が特に面白い。読者諸兄にはこの紀行文をより深く読み解くために、民俗学者の宮本常一が著した『イザベラ・バードの旅』（講談社学術文庫）を併せてお読みになることをお勧めする。

金谷邸のおもてなしに大感激

妹に宛てた金谷邸からの手紙に彼女は「まさに日本の牧歌的生活がここにあります。（中略）あの宿屋のどんちゃん騒ぎを経験したあとでは、勢いよく流れる溪流の水音と鳥のさえずりが快いこの静けさにはまことに心が洗われます。（中略）畳はとても上質で白く、ブーツを脱いでストッキングだけとなった足でさえ、歩くのがためらわれるほどで。」と記している。

金谷邸のもてなしがよほど心地良かったのか、イザベラは2週間近く日光に滞在している。イザベラは金谷善一郎の妹ユキのことを「私の知っている日本女性の中で最もやさしくて上品で、家の中を妖精のように軽やかに動き回り、その声は音楽の調べのような音色をしています」と記している。

イザベラは金谷兄妹のことを親しげに記しているが、中でも興味深いのは「金谷は外国人用のホテルを建てるつもりなのです。」という記述である。金谷善一郎が現在の地に日本初のリゾートホテル「日光金谷ホテル」を開業したのはイザベラにその夢を語った15年後の明治26（1893）年のことであった。そしてイザベラが泊まった「カナヤカテッジイン」は現在、「金谷ホテル歴史館」として一般公開され、見学が可能である。

明治21（1888）年頃の「カナヤカテッジイン」（現・金谷ホテル歴史館）。金谷邸は江戸時代には武家屋敷だったことから、外国人宿泊客は“Samurai House”（侍屋敷）と呼んでいた（写真提供：金谷ホテル歴史館）



イザベラ・バードは人力車で通った例幣使杉並木街道の印象を「日光の聖なる社の参道、杉の並木道へと変わり、木漏れ日が草に木の葉の影を揺らめかせはじめると、わたしは日本は美しいと思いました」と記している



金谷ホテル歴史館に保存されているイザベラ・バードの宿泊した部屋。彼女は部屋が美し過ぎて、「インクをこぼしはしまいか、畳に傷をつけはしまいか、障子を破りはしまいかと四六時中びくびくしている」と記している（写真提供：金谷ホテル歴史館）



イザベラ・バードが日光滞在中に訪れた湯元温泉の湯畑。彼女は「大きな温泉は村のうしろの、まわりに土盛りした四角い水槽にあります。ぽこぽこ湧き出て、悪臭のする湯煙を立てています」と書き残している



女性の二人旅も安全、安心な国日本

日光での楽しく、安らかな日々を終えたイザベラ・バードは、苛酷で新鮮な驚きに満ちた約3ヶ月間におよぶ大旅行へと旅立つ。まだ鉄道はないし、道や泊まるところさえおぼつかない明治初年の東北、蝦夷（北海道）は、まさに未開の地であった。多くの不便があつたにも関わらず、彼女はその旅で出会った多くの日本の民衆に対し愛情を持って接し、あたたかい理解を示している。それは、牧師の家庭に生まれ育った彼女がキリスト教的な博愛精神の持ち主であったことも関係しているのだろう。彼女は日本の旅の印象を、極めて客観的にこのように綴っている。

「わたしは本州奥地や蝦夷の1200マイル（約1920キロ）を危険な目に遭うこともなくまったく安全に旅した。日本ほど女性がひとり旅をしても危険や無礼な行為とまったく無縁でいられる国はないと思う」

イザベラ・バードの来日から150年近い年月を経た今日、日本は外国人観光客で溢れ、空前のインバウンドブームで沸き立っている。それは日本を訪れる外国人観光客にとって、昔も今も変わらず日本が世界に類を見ないほど安全で、安心して旅ができる国であり、浅草や日光といった魅力ある観光地を有しているからに他ならないのではなからうか。

一回限りの復活

暮

し
の
SPICE
に

三種のぼたもちを作ってお花見へ

「ぼたもち」と「おはぎ」、何が違うの、とはよく言われること。
 ぼたもちは春で、おはぎは秋、というのが一般的。牡丹は春で、
 萩は秋というわけ。いずれもお彼岸用に作られるものですね。
 小豆のあんのほか、ここではすり黒ゴマ、きなこ三種のぼたもちを
 ご紹介。お彼岸以外に、お花見に持っていくのもおすすめ。
 見た目もカラフルですよ。

用意するもの

あんこ 8個、きなこ、すり
 黒ごま 2個ずつ計 12個（大
 きさにより数は異なります。
 好みの大きさで）

- もち米 2合
- 水 2合
- 塩 ひとつまみ
- あんこ 500g

（市販のもの

こしあん、つぶしあん、
 粒あんなどお好みのもの）

- きなこ 大さじ2
- 砂糖 大さじ1 1/2
- 塩 少々
- すり黒ごま 大さじ2
- 砂糖 大さじ1 1/2
- 塩 少々

- ボウルやバット
- 水切りザル
- 軽量スプーン
- ラップ
- すりこぎかしゃもじ

など

もち米の炊き方

② もち米をボウルに
 戻し、手の平でや
 さしくもむように洗
 い、2～3回水を替
 えながらすすぐ。



① もち米にたっぷりの水を入
 れ、手早くサッと混ぜてザ
 ルにあけて、水をきる。



③ 炊飯器で水と塩を入れて
 炊く。



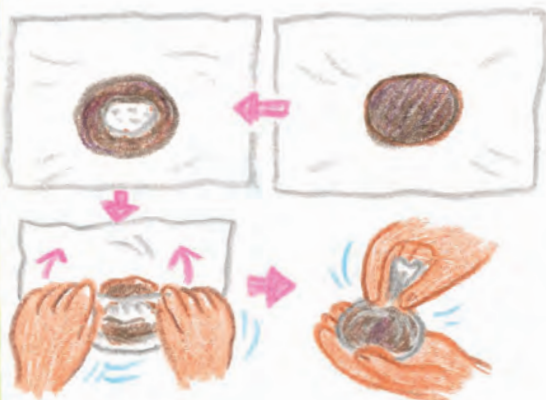
2 あんこを12等分するが、きなこすり黒ごま用のものはもち米の中に入れるので少し小さめに丸める。



1 炊き上がったもち米をボウルにとり、先の方を水で濡らしたすりこぎやしゃもじで半分程度つぶす(はんごろし)。それを12等分にする。



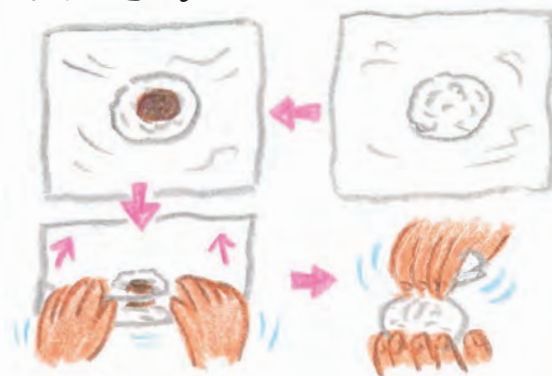
3 12等分したあんこをラップの上に伸ばし、丸めたもち米をのせて形を整え、包み丸める。



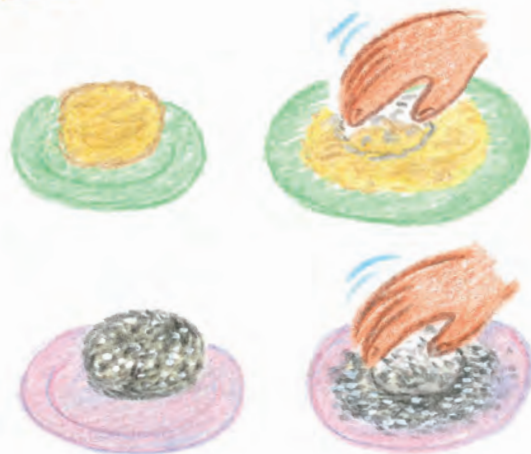
6 でき上がり



4 きなこすり黒ごまのぼたもちを作る。ラップの上にもち米を伸ばし、その上に小さめに丸めたあんこをのせて③と同じように包む。



5 4 にきなこすり黒ごまをまぶす。



連載当時の冒頭には「浮世絵などに描かれた「江戸名所」風景の多くは、今「東京スカイツリー®」のビューポイントとも重なります。」と記されている。つまり、広重や北斎の浮世絵に描かれた江戸名所を訪ね、現在地から「東京スカイツリー®」を望む「街歩き」ガイドのページである。このコンセプトに従って、今回は東武亀戸線「亀戸駅」から程近い亀戸天満宮をご紹介します。

【アーカイブスDATA】

浮世絵に描かれた江戸の名所の現在地を訪ね、東京スカイツリー®を望み、散策するページとして、6年間にわたり全50回連載されました。

掲載期間：2010年5月号～2016年12月号



亀戸天満宮（東京都江東区亀戸3-6-1）境内にて、満開の藤棚と太鼓橋越しに東京スカイツリーを望む



《亀戸天満宮境内 名所江戸百景》
歌川広重画 安政4（1857）年作 大判錦絵揃物

早春の梅、晩春の藤、 学問の神様を祀った花の名所



「亀戸の天神様」として、江戸庶民に親しまれてきた亀戸天満宮は正保3（1646）年、九州の太宰府天満宮の神職であり、菅原道真の末裔である菅原大鳥居信祐が、「飛梅」の木で道真公の木像を作彫し、寛文2（1662）年にこの地に祀ったのがその創建と伝えられている。

延喜元（901）年、藤原氏との政争に敗れ、遠く九州の太宰府へ左遷された道真公は「東風吹かばにはひをこせよ梅の花主なしとて春を忘るな」という歌を

東京スカイツリー®百景

空想美術観

— こんな場所発見! —

51景

詠み、都に残した梅の木との別れを惜しんだ。すると、道真公が愛玩した梅の庭木は主を慕って、遠く太宰府まで一夜にして飛び、その地に根付き、花を咲かせたという。

この「飛梅」伝説は人形浄瑠璃や歌舞伎にも脚色され『菅原伝授手習鑑』として人気の演目となった。

境内には道真公ゆかりの300本を越す紅白の梅が植えられ、毎年一早い春の訪れを告げる。本殿前には5歳で詠まれたと伝えられる「美しや紅の色なる梅の花あこが顔にもつけたぞある」という歌碑が道真公の像と共に建てられている。亀戸天神のもう一つの名物が、歌川広重の代表作である本作《名所江戸百景》にも描かれた藤の花である。境内に50株以上ある藤の花が一斉に咲き競う4月下旬から5月上旬には、心字池の水面が藤色一色に染まり、淡い香りが立ちこめる。太鼓橋の上から見下ろす満開の藤棚は絶景である。

境内には芭蕉の句碑や、学問の神様道真公に因んだ筆塚など、多くの石碑が建てられており、毎年、1～2月の受験シーズンには、学問の神様である道真公のご利益を求め、合格祈願に訪れる受験生で賑わいを見せる。

【アーカイブスDATA】

ミニチュアテーマパーク「東武ワールドスクウェア」に1/25スケールで再現された世界遺産や歴史的建造物をご紹介します「小さな世界紀行」は2010年

4月号から2015年2月号まで隔月で連載され、好評を博しました。

掲載期間:2010年4月号～2015年2月号

この企画が連載されていた2010～15年当時は、まだ東武ワールドスクウェア駅はなく、案内にも「交通:「鬼怒川温泉駅」前からバス5分、快速電車の場合「小佐越駅」から徒歩8分」と記されている。その後、2017年7月22日に「東武ワールドスクウェア駅」が開業し、アクセスは格段に良くなった。1/25の縮尺でも園内で一番高い「東京スカイツリー®」は約26mもある！



ピサの斜塔、エッフェル塔、東京タワー、東京スカイツリーによる新旧塔の共演が一望できるのも東武ワールドスクウェアならではの

1/25にしても世界で最も高い！ どこからでも見える 東京スカイツリー®

「東武ワールドスクウェア」は東武鉄道創立95周年の記念事業の一環として、栃木県日光市鬼怒川温泉に、5年の歳月と総工費140億円をかけて建設され、1993年4月24に開園しました。

総面積7.65km²の園内には「世界の遺産と建築文化を守ろう」をコンセプトに、21ヶ国の世界遺産や歴史的建造物100点以上が全て1/25のスケールで統一展示されていて、「一日で巡る世界旅行」ができるテーマパークとして好評を博しています。

園内の全ての建築物はその設計者の許可を得ています。その多くはFRPという強化プラスチックで精巧に造形・彩色されていますが、中でも古代ギリシャのパルテノン神殿などは、よりリアルな素材感を演出するために、本物の大理石の粉末を混入するといった工夫が施されています。

造形も最新のものを取り入れています。2012年に修復工事を終えて創建当初の駅舎に復元された東京駅も、最新の姿で再現されています。2019年に惜しくも焼失し、現在復興作業中の首里城や、今はなきニューヨークのワールドトレードセンター

ビルも健在ですし、1882年に着工し、今なお建造中のスペイン バルセロナのサグラダ・ファミリアには工事用のクレーンまで設置されています。

園内には平均身長約7cmの住人が約14万人住んでいます。ローマの広場にはスクーターに乗るオードリー・ヘップバーンが、イギリスの街中にはシャーロック・ホームズが、万里の長城には三蔵法師の一行が、そして日本の夏祭りの縁日には寅さんがバナナの叩き売りを演じています。そんな個性豊かな「小さな住人たち」を探してみるのも、「東武ワールドスクウェア」ならではの楽しみと言えます。

もう一つ、忘れてならないのは、建物の大きさに合わせて植栽された約2万本の見事な盆栽です。園内の樹木の約99%は本物が使われているのは造園に携わる職人たちのこだわりの賜物です。春の梅や桜の花々、初夏の新緑、秋のもみじやかえでの紅葉が、四季の移ろいを演出してくれています。特に「日本ゾーン」の法隆寺で小さな実をつける「豆柿」や熊本城の樹齢80年を超える「銀杏」の盆栽は注目です！

東武ワールドスクウェア

栃木県日光市鬼怒川温泉大原 209-1

東武ワールドスクウェア駅から徒歩 3分

営業日・開園時間は時期によって異なりますので、公式HPにてご確認ください。

入園料：大人(中学生以上) 2800円/小人(4歳以上) 1400円

☎0288-77-1000

URL: <https://www.tobuws.co.jp>

2016年11月に開館した「すみだ北斎美術館」との「コラボ企画」。葛飾北斎は生涯、墨東地区（現・墨田区&台東区）を転々と移り住み、東武沿線の名所を数多く描いている。私事で恐縮だが、この連載を担当したおかげで『北斎さんぽ』（青幻社）という著書を刊行させていただいた。今回は墨田区業平の柳嶋妙見山法性寺とゆかりの深い、晩年の肉筆画で最高傑作の呼び声高い《文昌星図》を取り上げた。

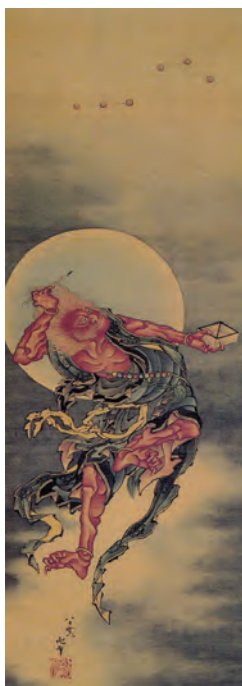
【アーカイブスDATA】

葛飾北斎が描いた江戸の名所を散策する街歩きガイドとして親しまれたページで、3年間にわたり全36回連載されました。

掲載期間：2017年1月号～2019年12月号



浅草通り、柳島橋上より東京スカイツリー®を望む。左が柳嶋妙見山法性寺



東京スカイツリー® 百景

北斎美術観 絵図散歩 37景

「北斎」の画号の由来となった
妙見信仰の聖地、柳嶋妙見堂

葛飾北斎

《文昌星図》天保14(1843)年作

絹本着色一幅(79.6×28.2cm)画号：八十四老記

生涯に93回引越しを繰り返した葛飾北斎は「画号」も30回改めている。最初の画号は師匠勝川春章の「春」とその別号旭朗井の「朗」を貰い受け「春朗」と名乗り、以後「宗理」「北斎」「戴斗」「為一」「丑」を主たる号とした。もっとも広く知られる「北斎」は「北斎辰政」の略号で、北斗七星を神格化した日蓮宗系の「北辰妙見菩薩」信仰に因んでいる。

飯嶋虚心著『葛飾北斎伝』には「北斎翁仏法を信じ、信仰せし押上の妙見は、日蓮宗の寺にて、(中略)式亭三馬の日記に、妙見の名木、影向の松の図を北斎に画かせた。」と記されている。北斎が足繁く詣でた「押上の妙見」とは、「柳嶋の妙見堂」として、江戸庶民の信仰を集めた柳嶋妙見山法性寺である。北斎が描いた「影向の松」(枯死)は当時松の名木として知られ、門前の北十間川沿いには参詣客目当ての料亭や茶店が軒を連ね、繁盛していた。

北斎の「妙見信仰」を裏付ける作品では、「勝川春朗」時代の習作『風流東都方角 柳嶋法性寺妙見堂の図』版下絵や「画狂老人北斎」時代に描いた摺物『妙見堂』などがあるが、中でも最も注目すべきは最晩年の84歳の時に描いた《文昌星図》である。

本作は画家河鍋暁斎の旧蔵品として、1993年に催された「大北斎展」で初公開され、高い評価を受けた作品である。「文昌星」とは北斗七星の第一の星で、その名の通り「文学」を司る神とされ、学士の崇拝を集めた。

古来より擬人化される場合の通例通り、本作も右手に筆を持ち、左手に北斗七星の別名「斗魁」の由来となった「斗」(杓)を持って、描かれている。画面中央には、満月を背に天空を浮遊する擬人化された赤い筋骨たくましい体躯に、理知的な顔貌の「文昌星」を描き、その頭上に残る六星を配した本作は、北斎の「妙見信仰」が生んだ晩年の肉筆画の傑作と言える。



《妙見堂》寛政13～文化2(1801～5)年頃作 画号：画狂老人北斎



《風流東都方角 柳嶋法性寺妙見堂の図》
天明5～7(1785～7)年頃作 画号：勝川春朗



柳嶋妙見山法性寺(東京都墨田区業平5-7-7)

明応元(1492)年に法性房日蓮(ほっしょうぼうにつせん)を開山に創建された、墨田区では最も古い寺院の一つ。東京スカイツリーのすぐ近く、浅草通りが橋上を走る柳島橋のたもと、ちょうど北十間川と横十間川の交差点に位置する。境内には近松門左衛門の供養碑もある。

【アーカイブスDATA】

東武沿線を歩き、歴史からおいしいカフェまで自由なテーマで書かれたエッセイ。
連載は100回を超える(最終回は130回)人気コーナーでした。

掲載期間:2006年7月号~2024年12月号

100回以上のコラムでしたが、広範な地域を結ぶ鉄道なので、話題に困ることもなく、まだまだ語りたいこと、訪れてみたい町がたくさんあります。

Essay — 遊歩雑記

アーカイブス



表参道の途中にある弁財天



分岐点になっている
ぐみの木峠



表参道



表参道を上りきると見えてくる
太平山神社の随神門



謙信平からの眺望

太平山へ

文 高田京子

栃木県栃木市にある太平山は標高約341m。小学校の遠足で登る定番の山だと聞いたのは、もう30年以上前の話だろうか。山頂近くに建つ太平山神社の表参道、「あじさい坂」と呼ばれる約1000段の石段に沿って咲くアジサイが有名で、毎年初夏には「とちぎあじさいまつり」が催される。

低山とはいえ太平山を上り下りするだけでなく、隣接する晃石山まで足を伸ばせばさまざまな周回ルートが組み立てられる。地図が苦手な私の強い味方はスマホ用登山アプリ「YAMAP」だ。地図をダウンロードしておけば電波が届かない場所でも現在地が確認でき、登山コースやコースタイムなど山に関する情報を幅広く提供。2013年のリリース以来、登山者には欠かせない存在となっている。

今回はあじさい坂から太平山神社へ、

参拝後は晃石山方面へ向かい、ぐみの木峠で南へ折れて大中正へ、その後は謙信平を目指して東へ、最後は六角堂を通って出発点に戻るというコースを作成。特に難所はないが、進む方向がわかりにくいポイントで、少しでも間違った方向へ進むと、間髪入れずアプリが警告してくれる。方向音痴の私には、大げさではなく神のようなアプリなのだ。

戦国時代の頃、上杉謙信が太平山に登って南の関東平野を見渡し、あまりの広さに目を見張ったという故事から名がついたという謙信平は、今も素晴らしい眺望が開けている。土産店や茶店が並び、春は花見、秋は紅葉狩りで大にぎわいだ。昨今、気軽な低山歩きがブームだが、アクセス・眺望よし、さまざまな周回ルートが組み立てられ、初心者でもOKという山はそんなに多くない。実は肝心のアジサイの季節に訪ねたことがないので、次回はぜひその頃に再訪してみたい。

たかだきようこ「旅行ライター」
1960年、神奈川県生まれ。著書に『ニッポン最古巡礼』(新潮新書)、『四国八十八カ所めぐり』(JTBパブリッシング)など。テレビ朝日「スーパーJチャンネル」特集コーナーにて「秘境ハンター」としてナビゲーターを務めた。沿線在住歴36年目に突入!

太平山

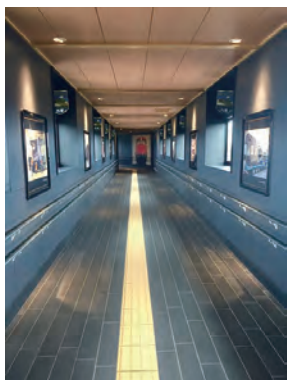
東武日光線栃木駅から関東バス国学院行きで約15分、終点下車。
太平山あじさい坂入口まで徒歩約4分

下今市駅での楽しみ方をいろいろ紹介しましたが、じつは私個人的には、特急リパティの分割・連結作業をホームから見学できるのが一番の楽しみ。とくに連結の瞬間のなんとも言えない「やったぜ！」感。日光線と鬼怒川線が分岐する下今市駅だからこそ見ることのできる風景なのです。

【アーカイブスDATA】

東武沿線のフォトジェニックなシーンを、イベント、歴史、アートなど自由なテーマで綴ったエッセイのコーナー。
掲載期間：2014年5月号～2024年11月号

Photo & Essay



レトロな雰囲気漂う下今市駅(上)／SL展示館へ向かう通路(左上)／転車台広場。奥の機関庫にはSL大樹が見える(左下)



みちくさ
写真帖
アーカイブス



文・清沢英彦

駅に いらっしゃい

「あなたの自慢の駅を教えてください」をキャッチコピーに、町の顔、シンボルとなる駅を広く公募し、平成9年から4年間費やして選定されたものが、「関東の駅百選」。この中に東武鉄道からは浅草駅、館林駅、東武日光駅、高坂駅が認定されている。「残念！あの駅がない」と溜め息をついた私。「仕方ないな。関東の駅百選が選定されたとき、あの駅はまだなかったから……」

「あの駅」とは、下今市駅。正確に言うと、下今市駅は昔から存在するが、その駅舎は平成29年に大きく生まれ変わったのだ。下今市駅は、東武日光方面と鬼怒川温泉方面に走る「SL大樹」の拠点駅となり、下今市機関庫が開設された。それに合わせて駅舎も蒸気機関庫が全盛だった昭和時代をモチーフとしたレトロ調の木造建物に改築。2層になった切妻屋根の間に玄関の正面破風という立ち姿はじつに端正で、掲げた駅名板には墨痕鮮やかに横組の右書きで、「駅」ではなく「驛」と旧字体になっている。そして玄関の左右にはテラスが設置され、だれでも自由に腰掛けられる。というか、腰掛けなくなる。これはテラスではなく「縁側」だ。

駅舎内部も待合室などは昭和モード一色。さすがに改札口には現代の自動改札機が並んでいるが、周囲の木材に合わせた黒に塗装されており、昭和に溶け込んでいる。お見事！

下今市駅の魅力は駅舎だけではない。ホーム上に残された旧跨線橋は登録有形文化財(文化庁)に認定。内部の通路をレトロギャラリーに改修して公開している。そして駅構内にはSL展示館。SLについての知識を展示物やジオラマなどで楽しく学ぶことができる。展示館の外に出ると転車台広場。ダイナミックなSL大樹の転車シーンを間近で見学できる。さらに転車台の奥に建つ煉瓦造りの機関庫は側面がガラス張りで、大樹を整備している様子を間近で見学できる。

下今市駅は、駅丸ごとSL大樹の観光スポットなのだ。

Profile:

●きよさわ ひでひこ(コピーライター)

福岡県田川市出身。CM制作、学習参考書編集などを経て、デザイン事務所「バーボンストリート」を設立。東京と福岡を拠点に広告、出版、放送局などで制作活動をしている。九州観光マスター検定1級。著作『食の九州遺産R 地元メシ』『旨い魚を食べに行く！九州の港町食堂』(九州人)は絶賛在庫多数。

【アーカイブスDATA】

俳聖 松尾芭蕉が『奥の細道』で歩いたコースを東武鉄道で巡るこの週末ウォーキングガイドは、2020年3月号から2022年11月号まで、3ヶ月に1回のペースで、全11回掲載されました。

掲載期間：2020年3月号～2022年11月号

このページは企画から携わっていただけに、特に想い出深い。深川から隅田川を船で通り、千住から草加→春日部→鹿沼→今市→日光まで、芭蕉の辿ったルートを、東武鉄道で辿る日帰り「奥の細道」紀行。実際に歩いてみると、沿線には芭蕉の句碑が数多く建てられていることに驚かされた。今回はその折に撮影した素人写真を添えて、番外編の「句碑めぐり」である。

TOBU 沿線

奥の細道を歩く

文・片山 喜康

その十二 番外編 千住～日光 芭蕉句碑めぐり

旅に生きた漂泊の詩人松尾芭蕉が歩いたゆかりの地を東武線で巡る、気軽な「週末・奥の細道」の旅。今回は沿線句碑めぐり！



素盞鳴神社（東京都荒川区南千住6-60-1）に建つ「行くはるや鳥啼魚の目はなみた」の句碑。文政3（1820）年建立、筆は江戸時代後期の儒者龜田鵬齋



芭蕉と曾良が泊まったとされる医王山東陽寺（埼玉県春日部市粕壁東2-12-20）本堂前には『曾良旅日記』の一節と師弟の姿が線刻された石碑が建つ



大神神社（栃木県栃木市惣社町477）に建つ「糸遊に結びつきたるけふりかな」の句碑。「糸遊」とは浮遊する蜘蛛の糸や陽炎など、儚いものの例え



「あらたふと青葉わか葉の日の光」句碑。昭和31（1956）年に日光東照宮宝物館（栃木県日光市内2301）前に建立。



「志はらくは滝にこもるや夏の初」芭蕉句碑：昭和31（1956）年、日光市立安良沢小学校の創立を記念して同校舎前に建立。

元禄2（1689）年旧暦の3月27日、松尾芭蕉は弟子の河合曾良と共に『奥の細道』の旅へ出る。深川から千住、草加、間々田、鹿沼を経て日光までの道のりは次の通りである。

3月27日 深川「採茶庵」→千住→草加（実際は粕壁泊）

28日 粕壁（春日部）→栗橋の関→間々田泊

29日 間々田→室の八島→日光例幣使街道→鹿沼泊

30日 鹿沼→今市→日光上鉢石町「仏五左衛門」宅泊

4月1日 日光→裏見の滝・含満ヶ淵→黒羽へ

芭蕉らが歩いたこのコースは、およそ現在の東武鉄道日光線に沿ったものである。旅程を詳細に記した『曾良旅日記』にも、惣社、壬生、楡木、文挾といった沿線に今も残る古い地名が散見し、芭蕉が詠んだ句を刻んだ句碑も数多く残る。

まず、南千住の素盞鳴神社境内には「旅立」の章で詠んだ「行春や鳥啼魚の目は涙」の句碑が建つ。文中に「是を矢立の初」とあるように、

この句は芭蕉が旅に出て最初に詠んだ句である。『奥の細道』ではその日は日光街道第二の宿駅草加に泊まったことになっているが、これはフィクションで、実際に宿泊したのは粕壁（春日部）である。宿泊先は諸説あり定かではないが、その一つと伝えられる医王山東陽寺には『曾良旅日記』の一節を刻した石碑が建てられている。

そもそも『奥の細道』の旅の目的は芭蕉が敬愛する西行らが詠んだ歌に登場する「歌枕」の地を訪ねることだった。その最初の地「室の八島」の大神神社にも「糸遊に結びつきたる煙哉」の句碑が残るが、なぜかこの句は『奥の細道』には収録されていない。

日光で芭蕉の読んだ句として広く知られているのは「あらたふと青葉わか葉の日の光」と「暫時は瀧に籠るや夏の初」の二句である。前者は日光東照宮宝物館の敷地内にひっそりと建ち、後者は日光市立安良沢小学校の校舎前に建っている。どちらも題字は日光ゆかりの画家小杉放庵の筆によるものである。



一軒洋食ものがたり

レストラン「藤木」

あれから20年

高橋 克典

午後の1時を少しまわった頃、レストラン藤木の扉が開いて壮年らしい夫婦連れが入ってきた。ランチ営業が一段落して、さっきまでの混みようが嘘みたいな店内にほかの客はいなかったものだから「どうぞ、お好きな席へ」と奈津美が声をかけ、

「今日のランチは特製ラーメンに小ピラフが付きます」

テキパキと説明する声が厨房まで聞こえたのだから、

「ごめん、ランチはもう山になりました」

奈津美の夫でシェフの信一が声掛けしてきた。

藤木のランチは評判がいい。とくに金曜日は特製ラーメンの日と決まっていた、行列が出来ることもある。いまのラーメンブームが始まる以前から、信一にはラーメンにこだわりがあって、水のような透明度があり、それでいてコク深い洋食店ならではのスープがでないものかと試行錯誤をくり返し、いまの形に辿り着いた。具は一切入っていない。いわば素ラーメンである。お好みで胡椒を振って麺とスープのバランスを味わってもらう。具がない分仕込みには時間がかかる。一緒に提供するピラフも本格的に米から炊きあげる。エビピラフのときもあれば肉ピラフのとき

きもあって、その辺は食材の仕入れ具合によって臨機応変に対応しているのだが、どちらから30食が限界で、これで今どき780円だから、いくら人気があってもランチで儲けは出ない。

「申し訳ありません。本日のランチは売り切れてしまいました」

奈津美がその夫婦に頭を下げたところ、

「いや、私たちはランチではなくて……」

その男性の顔をフロアの奥から遠目にしていた美和子が、

「ねえねえ、アちゃん、あの人がかなり老けたけど。オムライスさんじゃない」

自分たちが老けたことを棚に上げ、敦子にそう声をかけた。信一の母である美和子の声はもとも大きいところへもってきて、ホールにはその夫婦以外に客がいなかったものだから、思わず奈津美が振り返るほどの響きようだった。

「シつ、ちょっと美和ちゃんたら、聞こえるわよ」

敦子が制したときは手遅れで、当然のこと、美和子の声はその夫婦にも届いた。奥さんのほうはクスクス笑い始めて、ご主人のほうはいかにも照れくさそうに、

「あのう、私、そんなに老けたかねえ」

それで店中が吹き出した。その笑い声につられて信一が厨房から顔をのぞかせる。

「どうかしたのかい。悪いけどもうランチの追加は無理なんだよなあ」

「信一、こちらのご夫婦はあんたのラーメンを食べにいらしたんじゃないのよ。ご注文はオムライスでよろしかったですか」

美和子の言葉にご主人が大きく頷いた。

◇ レストラン藤木には、かつてフロアを仕切っていた美和子と敦子だけの隠語があっ

て、いつもオムライスしか頼まない常連さんを「オムライスさん」、必ずナポリタンを注文するお客さんを「ナポリタンさん」と呼んでいた。かつてはそういう常連客が結構いたのだが、シェフが信一に代替わりしたいま、そういうお客は少なくなっている。それでもこのご夫婦のように、忘れたころにやって来る「オムライスさん」がいて、こういうときこそ気をつけないといけない。ここは美和子と敦子の出番ということになる。

「老けたっていうのは冗談ですから気にしないでください。それで、うちのオムライスを注文されるのは、どのくらいぶりになるんでしょうか」

敦子が確かめるように訊ねる。

「かれこれ20年ぶりになるでしょうか。老けたって言われてもしょうがない年齢になっちゃって」

すると、自分は初めていただくのだと奥さんが言った。

「日本でいちばん美味しいオムライスを食べさせてやるからって。楽しみにして来たんです。あなた、お店があつてよかったわねえ」

「いろいろありましたけどねえ。こうして忘れずに来てくださるお客さまに支えられて、なんとか営業を続けてこられたんですよ」

「いや、よかったです。本当によかったです。もし潰れていたらどうしようかって不安で。いや、これは失礼なことを」

◇ 黒田さんというその客は印刷会社に勤めていて、この近くに取り引きのある製本屋があつて、営業で度々顔を出していた。その社長が気さくな人で、

「クロちゃん、昼飯まだだろ。食べに行こうよ。この近くに旨い日替わりランチを出す店があつてさ」

この小説のモデルはその昔、新宿末広亭の斜め向かいにあった洋食屋「キッチンロジータ」という店で、何を食べても旨かったがとりわけオムライスは絶品だった。貧乏な原稿書きは、あの値段と味におおいに励まされた。

連載が終わってしばらくしたとき、某大手出版社から単行本化のオファーがきた。ただしひとつ条件があって、一本の長編に仕上げて欲しいというのだった。広報誌という特性上一話完結を約一年間積み上げてきた物語を一本にまとめろと言われても正直なところ自信はなかったが、やってみましょうと答えた。でも、締め切りをひと月延ばしてもらって提出した原稿は不採用になった。その後知り合いの小さな出版社から連載当時の一話完結の形で出してもらったが、あまり売れなかった。こんなことのくり返しで今日に至っている。あのとき、きっぱり断るべきだったとも思うが、野心もあった。結局は読者だけが頼りの孤独な作業を続けるしかない、と覚悟を決める契機になった連載だった。

〈主な登場人物〉

藤木 信一：ホテルの厨房を辞め、レストラン「藤木」の3代目シェフを継いだ。

奈津美：信一の妻。パン職人である。

奈菜子：ナナちゃん。もうすぐ4歳だ。

美和子：信一の母親。開店当時から、ずっと接客を担当している。

金村 京子：奈津美の母親。

的場清太郎：信一の叔父。「藤木」を支え続けた。現在は「洋食・的場」のオーナーシェフ。

敦子：清太郎の妻。信一の実の叔母。

平田さん：謎の還暦アルバイト。

社長は誰に訊くともなく、「おーい、今日のランチはなんだった」すると従業員のひとつが、「ポークビカツと白身魚のフライでした。タルタルが旨いんですよ。でも社長、650円だったのが680円に値上がりしましたよ」

そうか、どうとう値上げしたかと言いつつ、誘われるままに連れ立って「藤木」の卓に着くなり、「日替わりランチ二つねえ」

社長が常連らしく大声で注文したところ、すでにランチは売り切れだと告げられた。するとメニューも見ずに、「だったらオムライスかナポリタンだな。クロちゃん、どっちがいい」

黒田さんは迷った。カツレツもあればハンバーグだってあるだろうし、さっきタルタルが旨いと聞かされていたからエビフライという選択も捨てがたい。しかし取り引き先の社長がオムライスかナポリタンだと言いつつ、た以上、メニューを見せて欲しいとも言えない。おれはオムライスだという社長に黒田さんも追従した。

「それが旨くて旨くてねえ。こっちはびっくりですよ。これなら三人前は楽にいけますねえと社長に言ったら、それは独りで来たときにしてこれって言われちゃいました」

それが痛み付きの始まりで、近くに営業に来たときは必ず寄って、本当に三人前を平らげたこともあった。そうやって、オムライスさん、の称号を手にしたというわけだ。

「その製本会社の社長さんで、村本さんよね。よく憶えてるわよ。ずいぶん前に亡くなったんですよ」

ほとんどメニューを開いたことのない常連さんだったという敦子の言葉を受けて、

「そうなんです。そのうち、うちの会社も長野に移転が決まって、気がついたら20年でですよ」

「定年になったら必ずこのオムライスを食べに上京するぞって、それが主人の口癖になってましてね。よっぽど食べたかったんだろうと思います」

さあ大変だ。奥さんのこのひと言で美和子と敦子、奈津美までがいつせいに信一を見た。その信一はためらうことなく奥の休憩室へ向かって叫んだ。

「シェフ、オムライス二皿、お願いします」

そのオーダーを聞きながら、「シェフはおまえだろう」

白衣は着ているものの、ご隠居よろしく淡茶かなんかすすっていた清太郎が甥の信一に返した。

「ほくじやダメなんだ。清太郎シェフのオムライスじゃなくちゃ」

そこへ妻の敦子がやってきて、「あなたのオムライスを食べるために、20年ぶりで長野から上京されたご夫婦のオーダーなのよ」

「清ちゃん、のんびりしてないで。日本一のオムライスってご注文なんだから。働かざるもの、ナントカってね」

義姉の美和子に促され、清太郎が厨房に立った。

「日本一のオムライスねえ……気が重いなあ」

ぶつぶつ言いながらフライパンを持ったとたん、清太郎シェフの背筋が伸びた。

◇

信一の腕はもう清太郎に負けない。それは両者ともに認めるどころだが、信一のオムライスはいま流行りのふわトロ卵にホワイトソースをかけまわしたもので、これはこれで人気だが、清太郎とはまったくコンセプトが

違う。

清太郎はチキンライスをたっぷりの卵で巻くようなことはしない。ハム、刻んだ玉ネギ、缶詰のマッシュルーム、材料はそれだけ。少量のバターとトマトピューレでご飯を炒め、塩胡椒をしたらケチャップを足して味のバランスを整える。専用のフライパンに卵を一個だけ溶き入れ、ライスを巻き上げる。手早く皿に移せば薄焼き卵を通して血管が浮き出るようなオムライスの完成だ。どこにも破綻がない。これにドミソースとウスターを混ぜたものをひとしずく垂らし、客の卓へと供される。

黒田夫妻は歓声を上げ、還暦を過ぎたご主人はなんと三皿おかわりしたのだ。まさに「オムライスさん」の面目躍如たる食べっぷりだった。

それを見ていた信一が「まったく敵わねえや」とぼそっと吐き、妻の奈津美がまああとと慰めるように夫の肩を叩いた。

ちなみに清太郎シェフの作るナポリタンの秘密の一端を明かせば、フェデリーニ、スパゲティーニ、そしてスパゲティーと3種類の太さの違う麺を一緒に使用することで食感を楽しませると同時にソースとの絡み具合を絶妙なバランスに整えるのだが、たぶん、ナポリタンさんのほとんどは気づいていないはずだ。

◇

店は経営者のものだけではない。そこで働くスタッフのものであり、なにより、味と時間と思い出を共有してきたお客さんのものなのだという、これが清太郎から信一が受け継いだすべてだと言っている。

さて、まだまだ物語は山ほどあるが、その山ほどある物語を抱えて、「レストラン藤木」は今日も営業を続けている。

「シネマトレイン」は、1990年12月号が通巻500号となるのを記念して、電車や駅が印象的な映画を集めた特別号「シネマトレイン」を発行したあと、2020年1月号まで不定期で連載されたコーナー。

映画以外にも「ミュージックトレイン」「シネマライブラリー」などのコーナーもあった。

掲載期間：1990年12月号～2020年1月号（不定期）

文：海津実 ほか

CINEMA TRAIN

さまざまなシーンに息づく鉄道。「シネマ・トレイン」では鉄道が印象的に登場する映画を紹介します。

花嫁はどいっく？

ありえない！花嫁の取り違い？

舞台は2001年、北インドのある村。しきたり通り自宅で結婚式を挙げたブル（ニターン・シー・ゴーエル）は、花婿のディーパク（スバル・シユ・シユリーワースタウ）に連れられて彼の実家へと向かう。

その日はインドの大安吉日に当たり、電車は満員で新婚カップルも多く乗り合わせていた。少し離れてはいるが、どうにか座ることができた二人は、いくつもの駅を通過する間に居眠りしてしまう。花嫁たちは皆、ベールを被って顔を隠している。

電車は目的地のムルティ駅に着。目覚めたディーパクは、慌てて赤いベールの女性の花嫁に声をかけて降り、夜遅くに待ちかねた家族のもとに到着。大歓迎を受けるなか、花嫁の赤いベールを外すと、そこには見知らぬ女性の顔が…。

一方、何駅も離れたバティラ駅では、はぐれてしまったことに気づいたブルが、呆然と立ち尽くしている。夫のディーパクに何事も任せ、彼の家の住所も電話番号も降りるべき

駅も分からず、さらに貴重品は全て彼に預けていたのだ。

間違えられた花嫁・ジャヤ（プラーティバ・ランター）の方は、夜遅くということもあり、ディーパクの家泊めてもらい、本当の花婿が見つかるまでいることになるのだが、なにやら謎が多そう。

駅のトイレで一夜を明かしたブルは、駅にすみつく少年に「迷子か？」と問われ、駅の事務室に連れていかれるが、夫の情報を知らないのでもうにもならない。そこで少年は駅の屋台の女主人のもとへ彼女を連れて行く。

二人の花嫁の夫たちは、いずれも警察に届けを出す、ジャヤの本当の花婿は前の奥さんが謎の焼死をしていたり怪しい感じ。一方、ジャヤの自由な態度や発言は、ディーパクの家にいる女性たちを驚かせ、影響を与えていく。

世間知らずのブルのほうは、屋台の女主人のもとで働かせてもらい、得意のお菓子が駅の乗降客たちの間で評判となり、初めて自分で稼ぐことができたことに喜びを感じて

いる。

名前を偽っていたジャヤは、ついに警察に逮捕される事態に。彼女が隠している秘密とは何なのか。そしてブルは愛する夫、ディーパクに再会できるのか？

描かれるインドの文化や社会にも注目

Potten Tomatoes で批評家100%、観客95%という驚異の高評価を叩き出した物語は、感動のエンディングへと突き進むが、ストーリーの面白さ以外に、描かれるインド文化にも興味津々！ 花嫁は二人とも、両親が結婚相手を決めている。カースト制度が残るインドでは、カーストや宗教が違えば結婚は不可能。カーストで女性の方が高い場合は特に絶望的だそう。

顔をすっぽり隠して足下を見て歩く花嫁たち、花嫁の家が花婿に持参財（現金や家畜やオートバイなど）を渡す、花嫁が手の平に描くヘナタトゥーという幸運を呼ぶおまじないの紋様、インド風の天ぷら・パコラ、ミルク菓子カラカンドといった駅の

屋台めし……等々、エキゾチックな見どころもたくさんありますよ。

文／正木ノリオ
イラスト／鈴木健文



「シネマトレイン」と隔月連載されていたページ。バックナンバーを見ると、「A列車で行こう」などJAZZの名曲が比較的多く取り上げられている。今回がROCKの黄金時代、1970年に列車で移動開催された、知る人ぞ知るユニークなロックフェス「フェスティバル・エクスプレス」を取り上げた。ご興味のある方はDVD化されたドキュメントムービーをご覧ください！

ある日の会議で、印象に残る鉄道を描いた「シネマトレイン」があるなら、同じく鉄道が印象的な本や音楽を紹介する「シネマライブラリー」や「シネマミュージック」があってもいいのでは、ということに。映画や本の場合は、鉄道が脱線したり事故が描かれるのはダメだったり、他社の鉄道だったら関東以外ならいいが、など会議で色々ありましたが、ミュージックには制限はまったく付きませんでした。

ミュージック トレイン

フェスティバル・エクスプレス

ロックの時代を走り抜けたカナダ横断特急
●「Festival Express」制作：2003年イギリス・オランダ合作 90分 日本公開：2019年

1970年の夏、カナダで『フェスティバル・エクスプレス』というロックフェスが開催された。

60年代末から70年代初頭は、67年の「モントレー・ポップ・フェスティバル」を皮切りに、68年の「ワイト島音楽祭」、そして今や伝説となった69年の「ウッドストック」といった、野外の大規模なロックコンサートが各地で開催されていた時代だった。

『フェスティバル・エクスプレス』もそんなロック・フェスの一つで、出演者は主要メンバーがカナダ出身のザ・バンド、西海岸で熱狂的なファンを持っていたグレイトフル・デッド、ロックの歌姫ジャニス・ジョプリン、ブルースの巨人パディ・ガイ、さらにデラニー＆ボニー、シャナナなど当時人気のミュージシャンが多数参加していた。

この『フェスティバル・エクスプレス』がユニークなのは、まず開催日が1970年6月29日から5日間にわたっていて、開催地も1ヶ所ではなく、東部のモントリオールをスタートし、トロント、ウイニペグからロッキーマウンテン脈麓のカルガリーを経

て西海岸のバンクーバーまでカナダ各地で行われたこと。さらにその移動手段が「Festival Express」と名付けられた貸切列車でカナダを横断するという、前代未聞のツアーだったことである。

この『フェスティバル・エクスプレス』に参加していたシンガーソングライターのエリック・アンダーソンはアルバム『ブルー・リバー』の中で、同じツアーの主要メンバーだったジャニス・ジョプリンに捧げた「Pearl's Goodtime Blues」という曲を歌っている。

パール、彼女はショーを独り占めにする
彼女はみんなをクレイジーにする
一晩中ノリまくって
みんなをサイコーの気分にならせてくれる

「パール」とはジャニス・ジョプリンの愛称で、彼女のラストアルバムタイトルのでもある。

ツアーの様子はドキュメンタリーとして記録されたが、制作上のトラブルによって、公開されることはなく、その存在は半ば伝説となっていた。25年後の1995年、カ

ナダ国立図書館でフィルムが奇跡的に発見されたが、著作権の問題などがあり、劇場公開はさらに10年後の2005年であった。

DVD化された映像の第一印象は同じロック・フェスを記録した『ウッドストック』には音楽よりも時代のスピリッツを記録しようという意図が感じられるが、『フェスティバル・エクスプレス』ではミュージシャンが純粹に音楽を楽しんでいるように見える。

車中でのジャムセッションのシーンで、ザ・バンドのリック・ダンコとジェリー・ガルシアに挟まれて歌うジャニスは実に楽しそうだ。カナダの自然の中を走る列車のシーンも素晴らしく、この和気藹々の雰囲気は、5日間をずっと同じ列車内で過ごすという、シチュエーションから生まれたものに違いない。

このツアーから3ヶ月後の1970年10月4日、ジャニスはジョプリンはハリウッドの「ランドマーク・モーター・ホテル」の一室で、ヘロインの過剰摂取により27年の短い生涯を終えた。

文：片山喜康

【編集後記】

別冊『マンスリーとーぶ』アーカイブス 1996～2024、お楽しみいただけただけでしょうか？

思えば様々なことがあった30年、テクノロジーの急速な発展による時代の移り変わりが著しい時代でした。30年といえば長いようでもあり、短いようでもあり、でもやっぱり1996年に生まれた子どもたちが30歳という、社会の中心を担う世代になろうというのですから、決して短いとはいえない年月です。ふり返れば、沿線の様々なまちを訪れ、そのまちの皆さんからいただいた情報なども読者の皆様にご紹介してきました。また、色々な企画やコーナーの執筆のために多くの方のご協力をいただいていたことにあらためて気付きました。「マンスリーとーぶ」はこれからも読者の皆様の毎日をもっと豊かにする、“ちょっといいこと”をお伝えしていきたいと思ひます。

お問合せ先

別冊マンスリーとーぶ アーカイブス 1996～2024

2025年3月15日発行 特別号

発行 東武鉄道(株) 広報部 〒131-8522 東京都墨田区押上2-18-12

東武鉄道お客さまセンター ☎03-5962-0102 ©東武鉄道 2025 Printed in Japan

企画・制作(株)レフ(代表・上田豊一郎)

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

●表紙/Takefumi Suzuki ※イラストはイメージです。

